

竹早

会報

2016 No.27

東京府立第二高等女学校同窓会
東京都立竹早高等学校同窓会

特集 戦後10年目に生まれた元竹早生より …… ③

—学園紛争を知らず、学校群制度を当たり前を受け入れて、ゆったり高校時代を過ごした還暦世代の半生—

篁会総会・講演会・懇親会のご案内 ……1	「特別セミナー」講師募集、出版企画 ……23
篁会会長・竹早高校校長挨拶 ……2	学年幹事・部活幹事連絡会、篁会Tシャツ…24
第9回篁寿会開催 ……16	竹早エコー、お休み処たかむら ……25
平成27年度「篁会総会・懇親会」報告 ……17	学校の活動報告 ……27
篁会教育基金・奨学生認証式 ……19	竹早高校から篁会へ ……28
関西篁会だより、湘南篁会だより ……19	理事会報告 ……29
第8回篁会特別セミナー報告 ……20	会費クレジット決済 ……30

特別企画 府立第二高女と篁会 …… ⑪



筥会

平成28年度

総会・講演会・懇親会のご案内

会場：ホテル東京ガーデンパレス 文京区湯島 1-7-5
03-3813-6211

日時：平成28年6月18日(土)
受付開始：15:00
総会(高千穂の間 A)：15:30～16:30
講演会(高千穂の間 A)：16:30～17:30
懇親会(高千穂の間 BC)：17:30～19:30



- ★ご出席の方は、6月3日(金)までに、同封のハガキでお申し込みください。
- ★懇親会参加の方は、同封の郵便局の払込取扱票または、30ページに紹介のクレジット決済により懇親会費をお振り込みください。

懇親会費：7,000円
(平成25～28年卒は2,000円)

<今回幹事> 高校26回生・昭和49年卒
<次回幹事> 高校27回生・昭和50年卒

講演会のご案内



① 「電子マネーの技術とビジネス展開、15年の軌跡」 16:30～17:00
講師：楽天Edy株式会社 理事 宮沢 和正 氏

【概要】 FinTechという言葉を知っていますか？ FinanceとTechnologyを組み合わせた造語で、技術を活用した新しい金融ビジネスのことです。我々は、15年前に非接触ICカードという技術に出会い、新しい金融サービスとして世の中を変えたいと思いビジネスを開始しました。電子マネー「Edy」の普及活動の15年の歴史の中で様々な物語が展開されました。ぜひ、皆さんに知られざる電子マネー誕生物語をご披露したいと思います。

【略歴】 昭和49年 竹早高校卒業/昭和55年 東京工業大学 経営システム工学修士修了、ソニー(株)入社/平成8年 ソニーエレクトロニクスUSA ディレクター/平成11年 ソニー(株)ICカード事業部 総合企画室長/平成13年 ビットワレット(株)執行役員/平成24年 楽天Edy(株) 執行役員/平成27年(株)ビッグデータ共創機構 取締役(兼任)/平成28年 楽天Edy(株)理事



② 「海洋生物との出会いから海に魅せられて」 17:00～17:30
講師：海洋生物学者 窪川 かおる 氏

【概要】 人間の祖先は約5億3千万年前の海にいたピカイアと考えられています。そこから長い進化を経て、私たちは複雑な身体と考える脳を獲得しました。ピカイアに似ている原始的な現生動物にナメクジウオがいます。脊椎動物への進化の謎を解く鍵を握る貴重な海洋生物です。私は20年前にこの動物と出会い、突然に女性海洋研究者となりました。楽しい海の魅力をお話したいと思います。

【略歴】 昭和49年 竹早高校卒業/昭和58年 早稲田大学大学院理工学研究科物理及応用物理学専攻修了(理学博士)/昭和58年 早稲田大学教育学部常勤嘱託/平成3年 東京大学海洋研究所助手/平成17年 東京大学海洋研究所先端海洋システム研究センター教授/平成22年 東京大学理学系研究科特任教授



「高校の学びと社会における価値創造」に寄せて

篁会会長 古関 恵一

「高校の学びと社会の仕事」について書いてみたいと思います。桜の季節の入学式に始まり、自主的運営の運動会、奨学生認証式、総合学習の特別セミナー、各種文化活動、最後に集大成の卒業式と、学校行事に係る行事だけでも、年8回ほど足を運んでおります。近年、教育現場の話の伺う機会が増えました。

一方、社会での仕事に絡んで、ここ数年のわたくしは、石油・天然ガス、石炭や電力などエネルギー動向を見立てし、戦略・企画の立案などを主としております。意外にも社会人としてのすべての活動で、学びを原点として高校時代を思い出し仕事をしていることに気づきます。高校の学びと社会の仕事については、車の運転が例として分かりやすいと思います。始動、右左折、追越し、狭いクラクの通り方、縦列駐車等、教習項目は数々あり、最初、その習得こそが学びであります。やがては、「単なる車の運転」とくられ、長い期間に安全運転できるかが大事となり、さらに、「車を使ってあなたは何をするのか」と全く違う切り口が「価値」として問われます。単なる「教習」優等生では立ち行かなくなる瞬間があると思います。自動車教習と同様に、中学・高校で「教科」として教えられていることは、社会に出れば単なる「基礎学力」にすぎなくなり、求められるのは、ものを覚えたり、上手であったりすることではなく、「人のために何ができるのか・あなたは何をするのか」との価値観が必要になります。ひとりひとりの“できる”ことが前提となり、世界が開けValue が届けられる、これらは、「社会の仕事」の作法とも感じます。ひとと協力をし大きなことが達成できる。特別セミナーを拝聴してこの感覚を多くの竹早の卒業生がもたれているように感じます。したがって広範囲の高校の学びと社会の仕事は、かけはなれたものでは決してない。

これらの関係性が高校生に「リアリティ」をもって伝われば、様々な多様性・可能性をひとりひとりが持っている現役の竹早生に、自分なりの学びの成果を持ち社会での歩みを将来、進めていただけるのではないかと思います。同窓会が持っている現役生への陰ながらのご支援というのはそういう、“学びのきっかけ”にもあるように思われます。

(2015年12月16日ジャカルタにて)



「国公立大学50名合格を目指して」

竹早高校校長 高田 純一

本校3年目になりました。今年度もどうぞよろしく申し上げます。

さて、27ページの活動報告にもあるとおり、昨年40名を突破した本校の国公立大学合格者数はさらに増えて45名となりました。私としては、「国公立大学50名合格」を一つの目標にしたいと思います。これは本校が進学校として達成すべき数字と考えています。

「国公立50名」を達成するには、実力のある生徒が集団となって存在する必要がありますから、その中から東大・京大など最難関大を目指す生徒が出ると期待できますし、早慶上理といった難関私大への合格者も増えていきます。早慶上理が増えるとGMARCHも増加します。当然そうした全体の進化を目指しているわけですが、一つだけメルクマールを選ぶとすればという意味で「国公立50名」と言っています。

進路結果を出すには小手先ではなく、学校としての総合力を上げていく必要があります。学校が一層組織的になり、生徒・保護者・教師の目線が合っていなければなりません。土壇場で負けない精神力を鍛えるため、部活動が一層盛んになる必要もあるし、遅刻をしないで授業に集中できるよう生活指導を徹底していくことも大切です。

そして、何と言っても竹早高校という伝統の力が生徒の支えになっています。毎年実施される「篁会特別セミナー」は生徒の意識を高く保つのに大きな力を発揮しています。

昨年12月には高校25回生で横浜国立大学学長の長谷部勇一先生による「特別講演会」を実施しました。お蔭さまで横浜国立大学に4名の合格者を出すことができました。まさに人材の宝庫である篁会には今年度もお世話になります。引き続き皆様のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

年会費・懇親会費はクレジットで →30ページ



戦後10年目に生まれた元竹早生より

——学園紛争を知らず、学校群制度を当たり前を受け入れて、
ゆったり高校時代を過ごした還暦世代の半生——

高校26回生(筮74回生)

私たち竹早高校26回生(筮74回生)は、昭和30年4月2日～昭和31年4月1日に生まれたので、戦後10年世代です。昭和30年代は、戦後の復興が戦前の水準に達し、昭和31年の経済白書に「もはや戦後ではない」と書かれたことは有名です。庶民は白黒テレビ、電気洗濯機、電気冷蔵庫の三種の神器といわれた家電製品をそろえることで豊かさを実感したような時代です。

昭和33年に東京タワーが建設され、また、高度経済成長を支えるための電力供給を行うために佐久間ダムや黒四ダムなどの大型の発電用ダムが次々と建設されました。昭和30年代後半には名神高速道路の一部区間、東海道新幹線、首都高速道路が完成し、東京オリンピックが開催されました。

昭和40年代に入ると、東名高速道路が着工され、本州四国連絡橋の建設が決定されました。私たちは、このような時代の

昭和46年に竹早高校に入学しました。

私たちの二学年上、つまり、当時の三年生は、実際に学園紛争を経験した世代でした。でも、彼らの熱さは私たちの世代には伝わらず、先生方の意識はまだ敏感で、「君はどのセクト?」と質問をされても、意味がわからず戸惑った記憶があります。むしろ、先生方のほうが、学園紛争に敏感だったのでしょうか。

高校に入ってしばらくすると、オイルショックが始まり、これを契機にほんやりと今までと何かが変わり始めたなど意識をし始めたように思います。それから約40年、大学生生活、社会人生活を通じていろいろな経験をしながらついに還暦を迎えました。このような世代の同級生12名が、改めて半生を振り返り、本特集に寄稿してくれたので紹介いたします。



姫野 賢治

実るほど頭を垂れる稲穂かな

折江(丁) 宏道 E 組

学園紛争も終わり「生徒権宣言」に守られた竹早時代から42年の月日が経ち、改めてその自由な校風の中で活動していた生徒たちの様々な光景を思い出します。進学校でありながら大学受験だけを見ているのではなく、生徒それぞれが個性を発揮し、そして、その個性を周囲が温かく認めていたように思います。

竹早の卒業生や在校生の皆さんであれば「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉の意味はご存知かと思いますが、この言葉の意味を身を持って感じるのは、社会人となって様々な経験を積んでからになると思います。私も若い頃は、身分の高い人や社会で成功した人が儀礼的に謙虚な姿勢を見せることではないかと思っていました。

若い頃は自分の力だけでできることも多く、自分の努力が大切と考えており、「継続は力なり」という言葉が好きでした。そのうち手掛ける仕事が大きくなり、人と力を合わせることが増えてきました。そうすると、人との協力やチームワークの大切さを意識するようになり「all for one, one for all」という言葉に馴染むようになりました。しかし、年と共に新しい分野の仕事や将来に向けた仕事に取り組むようになると、今まで自分が努力してきた事だけではとても対応できるものではなく、多くの方の力を借

りようになります。また、世界の広さ、大きさを意識するようになりました。世間には色々な人が様々な分野で努力しており、自分にはない知識や経験を持っていることに気付かされます。また、時代の変化と共に若い人から教わったり、気付かされたりすることも多くなります。その結果、まだまだ自分には足りないものが多いことを悟り、周囲の人に対して教を請う為に自然と頭が下がってくるのでした。そして、今の私には「実るほど頭を垂れる稲穂かな」という言葉が心に響くようになったのです。

今の私があるのは、少なからず竹早で過ごした高校3年間のお互いの個性を尊重する校風が影響していると思います。竹早を学び舎とする皆さんには、それぞれの分野で活躍して頂くと共に、広い世界と繋がって頂くことを願っております。勿論、私もまだまだ広い世界を探索し、楽しみたいと思っています。



竹早高校の近くの製薬会社

上野 正孝 A組

私は現在、製薬会社で脳・神経系の薬剤にかかわる仕事をしています。竹早に入ったころは、物理や化学に興味があったのですが三上先生の生物の授業を受けて生物にも興味を持つようになりました。また、地学の金子先生も記憶に残っています。岩石のサンプルを順番に生徒の間を回し、その名前を答えさせるという金子先生の試験をよく覚えています。さらに、『茜雲』という冊子を作られて受験の大切さを伝えられました。私も茜雲を読んで受験に臨み、大学では生物に興味を持ち始めた延長で、脳の研究をしてみたいと思いました。ただ、純粋な研究者では就職が心配になり薬学部を選びました。私の入社した会社は竹早の近くにあります。高校の頃は学バスという料金の安いバスがあり、私も時々乗っていましたが、そのバス停が現在勤めている会社の前にありました。当時は何の会社か全く知らずに乗っていましたが、その会社が今自分の勤める会社になっていると思うと不思議な気がします。

さて、会社での仕事ですが、最近は認知症に関連した仕事をしています。認知症の中で大きな割合を占めて

いるのがアルツハイマー病（AD）です。現在、症状を緩和する薬はありますが病気の進行を抑える薬はまだありません。ADに関してはアミロイド仮説に則った薬作りが各社で進められています。アミロイドという小さなタンパク質が長い時間をかけて脳内に蓄積し、神経細胞にダメージを与え、やがてADの症状が現れるという仮説です。脳内のアミロイドの蓄積はPETで分かるようになってきていますが、アミロイドを低下させる治療薬がないため、まだ広く検査が進められる状況にはなっていません。アミロイド仮説が証明され、治療薬ができれば、コレステロールが高い時にコレステロール低下剤を飲むように、アミロイドの蓄積が見つかったらアミロイド低下剤を飲むような世の中が来るかもしれません。自分もリスクな年代に入りつつあり、一刻も早くこのような薬が世に出ることを願っています。



拝啓 金子史郎先生

渡辺（芳賀）里美 E組

金子先生その後いかがお過ごしですか。昨年5月、竹早高校昭和49年卒のメンバーで還暦パーティー（出席117名）を無事終えましたことをご報告させていただきます。

17年前の学年同期会直後の3Eクラス会のこと、覚えておいでですか？残念ながら1回限りの開催となりましたが、返信ハガキに記載された元教え子達からのメッセージをまとめて印刷したものをお渡しすると、いつも通りのあの笑顔を見せてくださいましたっけ。

【金子先生とえば？】

- あの白衣とΩオメガマークの髪型
- 遙か遠く天を見つめるあの眼
- ニヒルな笑み
- 偽善の対極に位置するシャイなインテリ
- 孤高の科学者
- 囲碁の名人
- 理解の範囲を超えていた地学の授業
- 黒板にびっしり並んだ文字
- 机は書類の山
- 「清掃とは単なるゴミの移動である」という名言(!) etc.
- 青春模索の中にあった私達にとって強烈な問題提起の一つ『茜雲』：再読してみますと、当時の教育界および受験生への辛辣な警鐘が痛快なまでに書き綴られて

おりました。

○「授業をさぼり校外に出て警官に尋問されるとは」…うちのクラスならではのやんちゃな生徒達に注意した言葉は「どうせやるなら、もっと上手に真剣にやりなさい」：金子先生、よく呆れずに見捨てずに担任を続けてくださいました。

クラス会後に届いた金子先生からの御礼状。一部を紹介させていただきます。



拝復 過日の旧クラス会は、多数の出席、嬉しく思いました。我等がクラス、相当勇壮活発で、いくつか話題を残しましたが、爾來幾星霜、皆様それぞれ貫禄ある方となられて、さすがと感心しました。ほうっておいても、良き人間になっていく。それが昔の竹早生徒と卒業生に会う度に思うものです。もう皆様、社会の指導者となる齢、御元気で活躍されますよう。（後略）

律儀で教養溢れる文面。「ほうっておいても、良き人間になっていく。」こんな風に考えてくださっていたのですね。一見厳しい物言いの中、生徒思いで温かいお人柄に魅せられ、仲間が集う都度、昔話に事欠きません。金子学級に在籍できましたことを光栄に存じます。

平成20年3月14日にご逝去されたと、翌年奥様から寒中見舞いをいただきました。

一昨年、有志で菩提寺にお参りすることが叶い、奥様のご厚意で自宅にも訪問させていただきました。その流れで、還暦の会開催にもごぎつきました。諸々本当にありがとうございました。春になりましたら、また青葉園を訪れたいと考えております。

敬具

竹早、面白い高校でしたね。

下田 哲也 D組

まずは先生方。オメガ金子先生の受験指導に従い僕は予定通り浪人。予備校より雀荘に長く居ましたな。その一年目、自治医大への推薦書を松原コト先生にねだりに行ったら、彼女「宝くじみたいな大学やめなさいよ」。あの大学、見た目もの凄い倍率なのですが実はさほどでなく、麻雀で鍛えた勝負強さで潜り込みに成功。宮尾先生には数学の美しさを教わりました。しかしその最前線に挑むためには自らの才能があまりに貧しいことも痛感し、普通の医者になるべく、試験に落ちない程度の勉強と酒や麻雀の日々。

医学のなかで精神医学に惹かれました。それだけはちよいと真面目に勉強。当時精神医学の教授秘書だった女性が今もって僕の同居人をしているというおまけ話もごぞいます。

自治の卒業生は出身地の僻地に勤務する義務がありました。東京は伊豆や小笠原という離島の宝庫でして、島暮らしの時期は魚釣りに没頭。サビキと称する疑似餌作りまでやりました、その材料はゴム製避妊具です。内地に帰ったときは避妊具のコレクションを増やしたく薬局巡り。製品の色調をしつこく尋ね店員に変態あつかいされましたっけ。

1995年から開業医です。竹早の友人達のありがたみを知りました。開業直後の我が医院に二十人近い同級生が集まり、大宴会を開いてくれました。我が人生最高の二日酔い(翌日の朝、すごい量の空き瓶を片づけたっけ)。

シャンパンの一升瓶を持ち込む奴、手作りのつまみを作って持ってきた奴、メジャーを持参して物置スペースを

計測し後日ぴったりのスチール棚を開業祝いにくれた奴、やたら患者さんを紹介してくれた奴……ありがとうございます。

後年、我が医院に立ち寄った奴が、院内報のエッセイを面白がり、ライターとしての私を売り込んでくれ、我が処女作『医者とはサミは使しよう』が出版されたのも懐かしいなあ。その後、伊藤比呂美さんに平凡社を紹介され、新書『漢方の診察室』が出来ました。ちよいと古いシャープ社の電子辞書に入れてもらいましたから、皆様にも今すぐ読んで頂けるかも知れませんね。

2014年に中外医学社から『落語的漢方のすすめ』そして2015年同じ書肆から『オモシロ漢方活用術』なる書を上梓しました。他のはともかく、最新作は医療業界人、医療に興味のある方々には絶対読んでもらいたいと思う作品です。よろしくお願ひします。

自著の宣伝になっちゃった罪滅ぼしに、僕と世代の近い方々に絶対お勧めの一書をご紹介します。2007年に出た伊藤比呂美さんの『あのころ先生がいた』です。オメガ先生やチリババ先生などなど、皆さんがふれあった先生方が素材ですから。

いいですよ。さすが文学賞を受けた作家の作品だと思います。



No music, No life

峰島 (國安) 尚子 E組

「毎日が土曜日の午後」、それが私の高校時代。つまらない規則ばかりだった中学から一転、良く言えば「自主性を尊重する」、その実、「放任」とも言えるゆる〜い

竹早生活は、私にとっては、まさに天国だった。学園紛争が終わった後の学内に漂っていた静かで自由な空気は、竹早の歴史の中でも、あの時代独得のものだったの

ではないかと思う。そんな中、私はお勉強は二の次にして楽しい日々を送っていた。

今やロックファンの中で伝説となっている、アメリカのロックバンド「グランド・ファンク・レイルロード」の後楽園球場のライブにクラスメート数人で行ったのが高一の夏の思い出。部活動をしていなかった私は、下校後は、第四学区の音楽好きの集まる池袋の喫茶店に、毎日のように顔を出していた。竹早学内でも女子四人でフォークソングのバンドを組んだのもその頃。バンド名が「バンブーファスト」(笑)。そんな時、学年の一人の男子が歌手としてデビューするという、東上線の奥から通う私としては、びっくりな出来事があった。芸能界が意外にも身近にあったんだという事実。そこで、勘違いした私は、「時間ですよ」のオーディションに手を上げ、当然、落選。2万5千通の応募の中から、選ばれたのがあの「隣のミヨちゃん」浅田美代子だった。

演劇や音楽、舞踊に興味のあった私は、大学進学後、学内のミュージカル劇団に所属し、卒業後も二年間売れ

ない役者をして、まさに山口百恵と同じ頃、誰にも惜しまれずあっさり引退して結婚した。

そして子育ても終わった今、再びいくつかのバンドを組み音楽活動をしている。人様の前でやるからには、聴いて楽しい、見ても楽しいパフォーマンスを披露したい私にとっては、私服で通った高校時代に安くおしゃれをするために培った裁縫の技術は強い味方。曲や場の雰囲気に合わせて様々なコスチュームを製作して、コスプレ三昧だ。周囲から「もう結構!」と言われるまでやりますよ、まだまだ!



アンになりたかった

越智(田中)久美子 A組

小学校3年の時、『赤毛のアン』と出会った。それから、アンのシリーズは私のバイブルだった。いつか、アンのように聡明な、想像力豊かな、愛に溢れた、しかも美人ですらったお姉さんになるのが、私の夢だった。大きくなったらなれると本気で信じていた。笑わば笑え。

何度も読み返す『赤毛のアン』の中には、たくさんの聞き慣れない植物の名前が出てきた。シートに香りをつけるラヴェンダー、春になって花が咲き出すと、一番に摘んで愛する人に捧げるといふサンザシ、夕陽を吸い込む紫苑、庭に咲き誇る青い飛燕草…。それらの植物を想像しながら、いつかは本ものを見たい、そんな植物に囲まれて暮らしたいと、下町風に家々の立て込む西巢鴨の実家の、二階の四畳半で夢をみている。

竹早高校に入学してからは、学園紛争後の自由な校風を素直に享受して、夢見がちにお気楽に過ごしていたものの、2年生の冬ともなれば、志望を決めなくてはならない。私になりたかったのは、アンのような素敵女性だ。自然豊かな田舎に住みたいのだ。それ以外の具体的な志望などあるはずもない。このまま流されて、好きな国文か英文が志望で良いのか。居心地の良い学校でも、温かい家庭でも、誰も私に意見などしてくれない。自分が決めるしかないのだ。いつまでも夢ばかりみて、読書園芸、読書恋愛、読書人生で良いのか(当時はバーチャルという言葉はなかった)。今のままの四畳半で、平穩に年を取っていく中年の自分も見えてくる。私は、自



分の手にしっかり土を掴みたいと思った。そして千葉大園芸学部から種苗会社就職、大学の先輩と結婚して愛媛へ渡り、花の生産者から販売会社の設立へ、生活に追われ、子育てに追われ、世間と渡り合う仕事そのものがおもしろく、無我夢中の三十年はあつという間だった。大好きな植物たちは常に傍らにありはしたが、私は自分が何者であるのか、考えるゆとりもなかった。

今になって少し頑張り過ぎたかなと思う。私は、アンになりたかったただけだった。子供たちもとうに、それぞれの黄色い羽をバタつかせて巣立っていった。もう少しゆっくり歩いてみようかと思っている。初めてラヴェンダーとローズマリーの種を取り寄せ、地面に頬を押しつけて小さな芽生えの匂いを嗅いだあの日の感動を思い出そう。夏になると、家の裏に蓮の花が咲き誇る。百メートルほど歩けば、蛍の飛び交う川がある。畑には、夫の植えた野菜と、蜜蜂の巣箱だ。そして、家には犬と猫と、大切な人たちの笑顔がある。私になりたかった日も近いのかもしれない。

あの頃と「大石犬」

伊藤 比呂美 D組

誰しもそうだったと思うんですが、あの頃は、社会とも人ともうまく関わらず、少なくともうまく関われないという意識でがちがちになっていました。それでしょっちゅう屋上に逃避していたものです。そこから見えたのは秩父連山、池袋のサンシャインビル、中野のサンプラザ、新宿にも一つ二つ高層ビルがありました。関東平野はただっ広くて、ぼーよーとしてました。まるで自分のようでした。何にも掴めてなかったんです。成績も。進路も。好きなことも。やりたいことも。できないことばかりいっぱいありました。学生運動のさかんだった世代が卒業してしまっからからの入学で、校内には騒動の残り香だけ漂い、殺伐としており、自由だけあり、規則だらけの中学校から竹早に入った私は、その自由の使いかたがわからなくて途方に暮れていました。三無主義といわれて、前の世代の価値観は捨てきれず、下の世代の新人類ほど闊達に生きられず、必死になって自分を探すうちに、一つだけ確かに感じられたものが、自分のからだでした。それについて書き始めたところから、私の人生がほんとうに始まったような気がしています。

まだ字数があるので、小咄をひとつ。昔々、竹早の裏

手に一匹の犬がおりました。その名も「大石犬」。体育の大石先生にそっくりだと噂になり、「大石犬、またいた」「大石犬、見た」というのが朝の挨拶になりました。とうとう私もおそろおそろ見に行ったのでありました。あのときの驚きは一生忘れられません。大石先生の顔をそのまま犬のからだにはめこんで、茶色いむくむくした犬が、道端にねそべっていたのであります。何かの呪いと思われました。楳図かずおか古賀新一の世界のようでした。大石先生は若めでおもしろい先生でした。犬に顔をうつされるような悪業があるとは思えませんでした。何年か後、チャウチャウを見て、大石犬じゃんと思ったときの驚きもまた忘れられません。つまりあれはただのチャウチャウで、無知な高校生は誰もそれを知らず、ただただ驚いていたのであります。てなことをふと今朝、近所でチャウチャウを見かけて思い出しました。



秩父の夏祭り・道生のプロジェクトX

久喜(野田) まき子 F組

私は縁あって秩父で耳鼻咽喉科を開業している。ここ秩父は1年365日に430の祭りがあると言われるほど祭りが多い。中でも12月3日の夜祭は日本三大曳山祭りの一つとして有名だ。昨年のお祭りは、大雨との予報に反し晴れ間が出る暖かいお祭りであった。最近外すことのない気象予報を覆すなんて、さすが霊験あらたかな秩父神社さまだ、と感心しきり。昼間は、動く陽明門と称される絢爛豪華な屋台・笠鉦の上で、歌舞伎や、三味線と小唄に合わせた舞踊が演じられる。また暗くなると屋台・笠鉦には多くの灯りがとまり、豪華な装飾はますます輝く。笛、太鼓、鉦の奏でる秩父屋台囃子と共に、御巡行は神社の境内を出発しお旅所へと向かう。お旅所の手前にある急な団子坂を、囃し手の掛け声と共に大勢の曳き手によって屋台・笠鉦が曳き上がると、夜空に花火が上がり、祭りは最高潮に達する。

この夜祭に比べ有名ではないが、子供のための夏祭り、川瀬祭りが私は好きである。川瀬という名前のとおり、荒川の河原で無病息災を祈る祭典が行われ、川の流れ

の中で神輿洗いがおこなわれる。そして、夏祭りにも一回り小さい屋台・笠鉦が巡行する。

しかし秩父に来たばかりのころ、私の住む道生町には屋台も笠鉦も無かった。代わりに祖先が寄贈したという曳き太鼓があって、道生の子供たちはこれを曳いてお祭りに参加していた。この曳き太鼓は、東京で私が子供のころ引いていた山車と同じで、私も娘もこれで充分だと思っていた。ところが、夫の久喜をはじめ同年代の道生町民はこれでは不満で、いつか他の町内のように屋台・笠鉦を曳き廻したい、と思っていたのだ。中でも薄桃色の花をいっぱい飾った笠鉦は憧れの的でお祭りで顔をあわせれば「宝くじが当たったら笠鉦を寄贈



する」という冗談が常套句になっていた。そんな時に、上町で笠鉦を新調するという話が義兄からはいつてきた。世帯数の多い上町さんは裕福で、夏祭りも冬祭りも笠鉦を持っている。

道生町は世帯数も少なく笠鉦を新調することは出来ない。でも、もし、上町さんから古い笠鉦を譲り受けられたら、修繕して道生の笠鉦として夏祭りに曳くことができるかもしれない。お金が掛りすぎて無理だ、と反対する町内の慎重派や長老方を尻目に、道生笠鉦実行委員会が立ち上がった。久喜は実行委員長に祭り上げられ、実行委員たちは寄付金集めや、上町さんとの交渉に乗り出した。大人の男たちが、お祭りのために夢中になって動き出した。男のロマンに肩入れするのは女のロマン、と女たちも頑張った。道生の熱意に、古い笠鉦もお蔵入りするより幸せだろうと、とうとう上町さんの快諾を得て道生に笠鉦がやってきた。古い笠鉦は塗りが剥げ、飾り金

具もとれ、往時の輝きを失ってはいたが、幸いなことに心棒や車輪などの本体構造はまだしっかりしていた。漆を塗り直し、金具を新調し、道生笠鉦は少しずつ綺麗になっていった。まだまだ修繕途中であった二年目に、待ちきれない実行委員達の手で花笠を飾り、試し曳行がなされた。勿論、私も花造りに参加した。この頃には反対していた町内の人たちも大勢参加して笠鉦を曳くようになっていた。ならばと、秩父神社さんも道生笠鉦を認めてくださり、翌年から正式に夏祭りに参加できるようになった。まるで我が子が独り立ちをしたような誇らしい気持ちになったのを今でも覚えている。

我が家の前の通りは川瀬通りという。毎夏、立派になった道生笠鉦を子供たちが曳いて行く。どうぞ、皆様も機会があれば秩父の夏祭りにお越しください。道生笠鉦が待っているはず。

生涯最良の時は？ と問われれば

大竹 亮 B組

45年前、15歳の私は都立竹早高校に入学した。そこは別天地だった。

まず、行動範囲が飛躍的に拡大した。徒歩通学から電車・バス通学になり、同級生は学区中に住んでいた。教室の窓からは高速道路とビル街が見え、昼飯はサラリーマンや大学生に混じって食べ、放課後は魅力的な寄り道先の数々に誘惑された。自分の領域が、近所の中学校区から第4学区全体へ展開したのである(今でも「私の東京」は第4学区だ)。

そして、「高校は青空の如く自由な場」(金子史郎著『茜雲』より)であった。校則は存在せず、服装は自由で遠足や修学旅行は生徒が自主企画した。文系理系コースはなく、選択科目を自分で選び組み立てた。休みに喫茶店で語らえばそのまま戻れず、夕方はうどん屋の2階で牌を打ち回し、重賞レース前の土曜日には教室で予想新聞が熟読された。

さらに、同級生がみな大人びて見えた。自分の価値観を持ちつつ他者を尊重する個人主義的な性格で、よく遊びよく学び、何事にも一家言ある面々ばかりだった。TVドラマに見るアメリカンハイスクールのようだ。要するに竹早高校は、大都会の真ん中で、限りない自由の下、独立心旺盛な連中にあふれた場であり、まるで大学なのだ。

このような高校像が竹早115年の歴史のうちどのくらいの間続いたのかは不明だが、少なくとも直前の学園紛争が影響していたことは間違いない。本校には、高校闘争史上で最高の勝利と評価される「生徒権宣言」が存

在するからである。生徒手帳に掲載されたこの宣言は、生徒の思想・表現・結社・活動等の自由と学校運営・行事への関与を決然と表明しているが、これらは日本国憲法が国民に保障する普遍的権利に過ぎない。つまり、それまでの高校では生徒の基本的な人権すら認められていなかったわけだ。ただし、このすばらしい生徒権宣言には「確認事項」という留保が付き、社会的責任は学校が負うので、趣旨は認めるものの生徒の権利は一定の制限を受けるとされた(自己責任と社会的責任の境界は微妙であり、ついにコミュニケーションは実現せず!)。当時、この条項を巡って生徒側と学校側が激しい議論を重ねており、授業をつぶしては頻りに生徒総会が開かれたが主張は平行線のままで収束せず、途中で見限って街へ抜け出すことも多かった。

ちなみに、我々も結社の自由に基つき勝手に「鉄道研究会」を創設し、私が代表を任された。募集チラシに曰く「当会は文化祭一週間前に彗星の如く現れ、文化祭終了とともに消滅する幻の団体である」という極めて怪しげな組織ながら、最盛期には部員25名を擁し、竹早祭では教室を確保して多彩な鉄道模型を運転し、大勢の来場者を魅了した。

こうして私は、竹早高校で3年間、都市における自由と責任なるものを実体験しつつ過ごした。したがって、



大学生活への憧れは全くなかった。学問中心の淡々とした毎日しか考えられず、「大学なんて面白くないだろうな」が合言葉だった。しかし、実際に大学へ入ってみると、その学問が充実していた。高校で人生哲学を掴んだとすれば、大学では専門的知見（都市計画専攻）を得て、いずれも、その後35年間の職業生活の基盤を成した。

長らく勤めた職場を昨年退職したが、その間13回の

転勤があり、生涯通算15軒の家に住み、現在は高校時代と同じ住所に戻って大学生の娘と暮らしている。そして、専門分野の経験を活かした仕事を続けながら、街を歩き、映画を見、音楽を聴き、本を読み、時には旅に出るという気ままな日々を送っている。高校周辺の街の姿は当時と大きく変わってしまったが、生徒権宣言の精神は今も生きていだろうか。

ずっとご近所です

山本（今井）和子 D組

生まれて此の方ずっと、竹早高校から徒歩1分の所に住んでいる私。竹早在校生の“彼・彼女ら”の変遷を目の当たりにしている。幼いころは竹早の校庭に潜り込んでよく遊んだ。そんな子どもたちを叱りつけてくるお姉さんたちが実はお勉強のできる人たちらしいことを、近所のおばさん達が話していた。

さて、そんな「ご近所の都立高校」にいざ入学してみると……41群の振り分けで来たくないのに竹早に来た…とつまらなそうに話す男子、どここの私立を振って来た…と話す女子。体育だけが生き甲斐の私にとっては、校庭も狭く、体育館もなかったこの学校に、中途半端なところに来たな…という想いを持ったままに第一学年が終了。

二年に上がる前、クラス替えをするか否かを投票で決めるということに、初めて学園紛争の名残がここに存在することを実感した。多数決によってクラスが替わり、比較的、馬鹿げた人たちが集まったD組コトファミリー、松原コト先生とのコラボレーションで賑やかになったように記憶している。



竹早祭に情熱を燃やして映画撮影のために逗子まで行ったり。まあ、男どもは、何の口実がなくても、埼玉あたりの廃屋に「いも洋館」と名付けて、随分と遊びまわったらしいが。卒業後も、コト先生がお元気なうちは先生のご自宅でクラス会等をさせていただいたし、息子さんの元に引っ越されてからも数回ご出席いただいた。

あれから42年…。今日も、あの頃のように？在校生のカップルが楽しそうに、手を繋いで堂々と我が家の前を通っていく…。

写真は我が家を一步出たところにある「東門」の前で。

ひとり出版社を作ってしまった。

山田（大貫）祥子 E組

神保町という町に通って40年近くなる、と書いてみて我ながらびっくりしてしまいました。

かつて木造家屋が密集していたこの町の路地裏に、このごろは、お洒落で美味しいビストロやイタリアンレストランが点在するようになりました。そこを訪れる若い女性たちの、自信に満ちた、輝くような笑顔を目にすると、ほほえましくもあり、うらやましくもあり、わが身の来し方を少しふりかえてみたくもなるのです。

昭和53年春、大学は卒業したものの職を得ることができなかった私は、毎朝、新聞の求人欄に目を通す日々

でした。ある朝目に留まったのは、卒論でさんざんお世話になった本の版元の求人でした。記された住所をたよりにようやくたどり着いた会社はレトロな木造二階建て。おそろおそろ入っていくと、社長以下6人の社員が黙々と働く不思議な空間でした。気が付いたとき、私はこの社員（当時のことばで“女の子”）として社の雑用一般を引き受けていました。雑用というのはたいしたもの、広範な情報が目や耳に触れる、しかもその目や耳はまだ未熟である、ここに



私の勘違い人生がスタートしてしまった、私は何でも知っている、なんだってできる……。

出版界には大手から中小零細まで当時 5,000 社が存在していました。神保町には社員数人規模の会社がひしめいていて、しかも、それぞれがそれぞれ分野で一流の企画をもち、世界に発信しているさまは、目をみはるものがありました。先輩社員の仕事ぶりが全部見える環境の中で、私は、編集の手伝いから著者への対応の下準備、伝票書きや倉庫の整理整頓など、あらゆることに面白がって食いつきました。活版印刷の最後のころで、古い世代の職人さんたちとも仲良しになりました。隣の用紙店の人たちは、刺し子の法被を着て重い紙を担いでいました。フォークリフトより小回りが利くと言って。

せっせと本作りを続けた挙句、あるときある事情で私は会社を辞めました。そして、ひとりで出版社を作ってしまった、やはり、本を作っていたかったのです。イラストは、その時のアルバイトさんが描いてくれたもので、少年が、書架の高いところにある憧れの本に手を伸ばしているところです。私の思いをよく表現してくれました。

先日、近所の古書店の店頭で懐かしい本を見つけました。昔、私が担当した国文学の研究書、12,000 円の定価でしたが、品切れになった後、古書の価格が7～8万円だったと思います。バブルと言えばそれまでですがまだまだ紙の本に権威があった時代だったのでしょ。それがなんと木箱の中で 500 円のシールが貼られていて……。「あなたの役割は終わったのね」と、そっと手を触れて立ち去りました。

時代は、紙を置き去りにして目まぐるしく変わっていきます。が、私は今日も路地裏のカウンターの片隅で、若い人たちのおしゃべりに耳を傾けながら、鈍りかけた頭を鼓舞して次の一手に思いを巡らせているのです。



行方不明からの生還

川戸(秋山)直美 B組

2006 年(平成 18 年)5 月、TBS 金曜日のドラマ「クロサギ」を見ていた私は、テレビの画面にくぎ付けになった。中学校・高校と通った文京区の春日通りに出る大階段が映っていたからだ。一挙に 20 数年前に引き戻された。

文京区立茗台中学校から約 5 分離れた都立竹早高校に入学した。学校群の片割れの「小石川高校」でなくてよかったと心から思った。徒歩で通える高校、何とも楽だと思ったからだ。高校時代は、まさにカルチャーショックの連続。自分のテリトリーからちょっと出ただけなのに、こんなにも知らない世界が広がっていきよとは思ひもしなかった。

必死になって皆について、真似して、粋がっていた。授業の先生方が皆个性的で、自由で、愛情込めてニックネームをつけた。生徒会の難しい話は聞き流し、文化祭に燃えた。クラスで主催の「お化け屋敷」のお化け役は今でもマイ・レジェンドである。

こんなことを一気に思い出した私であるが、今年の「篁会」に出席するまで「行方不明者」扱いとなっていた。就職した年に、文京区からはるか遠く埼玉県に隣接の清瀬市に転居したまま、年を刻んだからだ。皆さんより

1 年遅れで東京都の教員となって以来、うん十年、私が過ごした中・高時代が基盤となった「わたし流」の教師をやっている。前号にも出ていたが、同期の都校長会初の女性会長の樋口育代さん、ずーっと前から校長欄に名前がある杉山善之くんの背中を見ながら、同職で助けられている。節目の年に「行方不明者」から抜け出せたのは、高校時代にも助けていただいた、濱和廣先生のおかげである。また、呪文のように唱えていたのは土屋正孝先生の「君たち、品位を保ちなさい」の言葉である。どのように様変わりしようが、茗荷谷から春日通り、竹早高校は、私の大人への出発点であり、原風景である。

ちなみに「クロサギ」に出演していた堀北真希さんは、教え子である。





東京府立第二高等女学校のあゆみ

現在、竹早高校のある場所に「府立師範学校」が移転してきたのは、1889年(明治22年)だった。その後生徒数が増加したことから同校は1900年(明治33年)2月、北青山に移転した。同年その跡地に新しい女子師範学校と、東京では2番目となる府立第二高等女学校が3月に創立され、11月には女子師範と合同で開校式が開催され教育はスタートした。生徒数は府立第一高女からの転校生を含めて177名で、校長は林吾一氏だった。氏は10年余校長の職にあつて、「質実剛健」を理想に「独立自主」の校風の確立に努めていった。

この地、小石川区竹早町は本郷台地の一角に位置し、明治政府にも影響力のあった土族・華族の上流家庭の住居も多く、在校する女子は模範とされ敬意を払われていたという。

高等女学校の教育期間は12歳から16歳までの5年間で、当時は良妻賢母をめざす教育が主流で、家庭科、修身に重きが置かれ、理科系、外国語、数学の授業時間は少なかった。しかし、第二高女では「女子自ら演説も、論文も書かねばならぬ、普通以上の学力を与えたい」という林校長の方針で、男子中等学校に準じたカリキュラムが採用され、立派な家庭人ではなく、社会人を育てる教育方針のカリキュラムを採用、授業が行われた。

1901年(明治34年)3月に第1回卒業式が行われた。卒業生は45名で第一高女からの転校生達だった。それから48年間、巣立った卒業生は3,386名を数え、まだ女性が社会で活躍することの少なかった時代にも拘わらず、政治、教育、また伝統文化の世界で、海外で、大きな貢献を果たすことができた。第二次世界大戦中でも、校内ではテニスなどさまざまなスポーツが活発に行われた。当時の風潮にもなっていた皇国民教育を単に押しつけるのではなく、教室は自由で闊達な環境だったと伝えられている。

戦後、都立第二高等女学校と改称され、3年制の都立竹早高校と年齢別に机を並べた。高女で入学した生徒には、高女、高校どちらの卒業証書を手にするか選択できたという。最後の府立第二高女、49回生を選択した卒業生の数は27名であった。



①創立当初の本館正面



②第1回卒業生



④セーラー服の制服



⑥赤十字のワッペン作り作業



③完成した新校舎



⑤完成直後の鉄筋校舎



⑦文部省制定の「新制服」

～第二高女から竹早高校へ～

東京府立第二高等女学校のできごと		社会の動き
明治32(1899)年		高等女学校令公布(2月)
明治33(1900)年	東京府第二高等女学校創立、東京府女子師範学校に併設される(3月)	
	小石川区久堅町光圓寺の仮教室にて授業開始(5月)	
	小石川校舎(現在地)に移転(9月)<写真①>	
	11月7日、開校式(この日を開校記念日と定める)	
明治34(1901)年	第1回卒業生を送る、東京府第二高等女学校同窓会創立(3月)<写真②>	高等女学校令施行規則公布(3月)
	東京府立第二高等女学校と改称(7月)	
	開校記念式典後、運動会実施(11月)	
明治37(1904)年		日露戦争始まる(2月)
明治40(1907)年	女子師範学校と共通の校歌制定(4月)	
明治43(1910)年	校友会設立、学芸部・倶楽部・運動部の活動始まる(3月)	韓国併合(8月)
	同窓会「会報」第1号発行(12月)	
大正3(1914)年		第一次世界大戦始まる(7月)
大正4(1915)年	御真影を奉戴(10月)	
大正7(1918)年	新校舎竣工(11月)<写真③>	
大正11(1922)年	同窓会を「簗会」と改称(4月)	
	初の本格的修学旅行(関西方面)実施(4月)	
大正12(1923)年	関東大震災のため被害を受けるが、焼失は免れる(9月)	関東大震災(9月)
昭和4(1929)年	制服にセーラー服採用(1930年4月着用実施)および校章制定(10月)<写真④>	世界恐慌始まる(10月)
昭和6(1931)年	満州の軍隊に慰問袋発送(12月)	満州事変起こる(9月)
昭和7(1932)年	校旗制定(9月)	
昭和10(1935)年	鉄筋の新校舎完成(11月)<写真⑤>	
昭和12(1937)年	慰問袋作成(7月)・防空防火演習(9月)・陸軍軍需品製作(11月)<写真⑥>	日中戦争始まる(7月)
昭和13(1938)年	戦傷兵用白衣縫製作業実施(8月)	国家総動員法公布(4月)
昭和14(1939)年	高女5年生、朝鮮半島への修学旅行実施(5月)	第二次世界大戦始まる(9月)
昭和16(1941)年	北多摩郡小平村に農園(1705坪)を設置(4月)	太平洋戦争始まる(12月)
	文部省制定全国一律の「新制服」着用開始(4月)<写真⑦>	
	この年、竹早報国団・報国隊結成(勤労作業の体制整う)(5月)	
昭和18(1943)年	東京都制施行により、東京都立第二高等女学校と改称(7月)	中等学校令公布(高女など修業年限1年短縮して4年制とする、教科書国定化)(1月)
昭和19(1944)年	この年、岩谷産業・共同印刷・陸軍兵器補給廠などに長期勤務動員	学徒勤労動員の通年実施を閣議決定(3月)
昭和20(1945)年	決戦教育措置要綱決定により、授業1年間停止(3月)	ポツダム宣言受諾を決定(8月)
	授業開始(9月)、全校遠足実施(10月)、学芸会実施(12月)	
昭和21(1946)年	高等女学校5年制復活(2月)	日本国憲法公布(11月)
昭和22(1947)年	女子師範学校との併設関係なくなる(9月)	教育基本法・学校教育法公布(3月)
昭和23(1948)年	学制改革により、東京都立第二女子新制高等学校と改称(3月)	新制高等学校発足(4月)
昭和24(1949)年	高女49回生卒業(27名)、新制高校1回生卒業(27名) 男女共学制実施(男子5名入学)(3月)	
昭和25(1950)年	東京都立竹早高等学校と改称(1月)	朝鮮戦争始まる(6月)

【たずさえて友と 写真で綴る「竹早の百年」】(東京都立竹早高等学校百周年記念事業実行委員会、2000年11月)を元に作成

歴代簗会会長座談会

—高女の思い出を語る—

城戸崎 愛さん

- 簗43回 1995～2002 簗会会長
ル・コルドン・ブルー出身、料理研究家
長年NHK「きょうの料理」の常連講師、ラブおばさんと親しまれている

星野 昌子さん

- 簗50回 2002～2005 簗会会長
青年海外協力隊第1期生、日本NPO協会元代表理事
日本国際ボランティアセンター顧問
2008年G8 洞爺湖サミットでNPO代表

松本 紀子さん

- 簗41回 2011～2014 簗会会長
鎌倉女子大学理事長を経て、同学園主、教育者として活躍している
現在も音楽会を開催している



★写真：向かって左から
星野昌子さん、城戸崎愛さん、松本紀子さん
(2015.12.24 城戸崎さんのお宅で)

簗会の中に、第二高等女学校の卒業生、高校4回生までの皆さんが参加して活動している簗寿会があります。今日は、生涯現役を目指して今も活躍中の元簗会会長にお集まりいただきました。

—まずタイムトリップしていただきましょう。どんな女学生だったのでしょうか。

女学生時代のおしゃれ

—当時の制服はやはり、セーラー服ですよ。

城戸崎：同じ制服でも、皆さんおしゃれ、小さな工夫をこらすのよ。学校のきまりはあったの。でも、素敵に仕立ててくれるお店があって、人気のあったの。

星野：「ヨシザワ」でしたね。



城戸崎さん

—違いはすぐ分かるものですか？

松本・城戸崎：わかるのよ！普通制服はちょっと「だぼっ」でしょ。ヨシザワの仕立だと、シルエットも、スカートの襷も、裾もスキットとして目立つもの、それは得意になる。

松本：足元だってストッキングで固める。でも問題は、ちょっと糸がほつれると、またたく間に伝線してしまう。慌てて購買部まで買いに行く。それでもストッキングを履いていたのよ、流行の先端を行くおしゃれさんだったのよ。

80年前の女学生も、憧れはやはり「イケメン」

松本：私が入学した年に「2.26 事件」があったの。その頃試験科目は筆記試験だけでなく、体操の実技、図画、お習字、と総合試験でした。次の年、やっと5科目になったのよ。

—私たち（昭和36年）も9科目あり、試験は2日間でした。昔に戻っていたのですね。その後は3科目になったと思います。試験勉強はどんなでしたか？

松本：今のような専門の塾ではなく、退職した先生方が開いていた「私塾」でした。

城戸崎：私の2年上に超優等生の松本さんがいらしてね、落ち着いて物静かな姿は理想の女学生でした。その一方で、バレーの上手な上級生にキョーキョー憧れていました。

松本：アイドルがない時代でしょ。憧れはお姉さま。同級生には野球派もいて、早稲田と慶応とかひいきがあったから、試合の翌日は大変だったわ。その間を取り持ったのが宝塚派だったのよ。運動会ではグノーの「ファウストのワルツ」を5年生が全員で踊りました。長いスカートを翻して踊るからとてもきれい。私たちも5年生になったら踊るんだ、と胸をときめかせたことを覚えています。

城戸崎：素敵なお先生がいらしたわ。音楽の先生や英語の先生。

松本：歴史の八尾先生も素敵でした。思い出したくだけどきどきしてきたわ。音楽の先生は福本先生、イケメンでした。今と違い、先生方はどなたも生徒の身元までよくご存じで身近な存在でした。NHKコンクール出場の際は、先生の指揮でドキドキしながら私がピアノを伴奏しま

した。結果は、第一高女が優勝、第二は準優勝と順番通りだった。それにしても、第一高女には対抗意識を燃やしていました。でも、それが励みだったのですね。



星野さん

——星野さんの時代にも、そんなときどきするようなこと、ありましたか？

星野：私は男の子みたいで、男の先生には興味がありませんでした。

城戸崎：英語の海老池先生、本当に素敵な先生でみんなおっかけをしていました。その後一橋の先生になられたの。

松本：学校で音楽会が時々あったの。そこにはバイオリンの江藤俊哉、お琴の宮城道雄のような一流の方や、卒業生の関種子さん（声楽家）も出演されました。

戦後の激動の時代

星野：憧れていた第二高女に入学すると、すぐ疎開という時代になりました。やっと戦後になっても、学校の体制は整っていませんでした。社会の価値観が大きく変わり、古いものを捨て、何でも新しいものといった風が吹き始めたのです…。

一方で社会が自信を失っていました。学校も文部省も。そんな時代だったので生徒同士の団結というか、信頼は深くなっていきました。

卒業を前に、学校は高女から高校に変わりました。第二高女の卒業証書を欲しい人は5年で卒業、大学を目指す人は6年在学して、都立竹早高校を卒業しました。少女達には激動の時代でした。新しいものを創る、そんな気概は、こんな時代の影響のように思えました。

松本：古き良き時代の気風、矜持を忘れない誇りが誰にもあったのだと思います。

偉大な先生

——当時の校舎も師範学校と高女は一緒でした。お隣同士、師範の先生が高女で授業をしたり、実践的な教育もされたと同じでした。

星野：英語は黒澤先生から学びました。最初の授業でいきなり「言葉は音、コミュニケーションができること。私から文法は学んでも英語が学べるとは思っていけません」と言われました。暫くすると占領軍の将校の奥さま方が授業に来られました。奥さま達が店員さん、そのお店で買い物をする想定、英語のお店屋さんごっこね。お客の生徒が買い物をして、できないと、列の後ろに戻る。1946年頃、外国語は身体で覚えていきました。

黒澤先生は「ガス灯」「赤い靴」「ハムレット」などの名作を映画館で観る授業を実践しました。事前にシナリオを何度も精読させられました。同じ映画を3回観て、英

語を読み取るのです。楽しいどころか大変でした。

そうそう、私は疎開先の山梨で終戦を迎えました。その時、私は日本から世界を見るのではなく、世界から出来事を見なければいけないと思いました。英語はマストだと思ったのです。それだけに、黒澤先生の授業は心に沁みる物がありました。



松本さん

——城戸崎さんはフランスにお住まいでしたが、やはり世界を感じましたか

城戸崎：主人は商社マン、一緒にフランス駐在を経験することとなりました。憧れのパリではフランス語学校に通いました。主人の勧めで、進級しないで同じコースを2回受けました。フランス語を学ぶと、英語が不思議と身近に感じられました。

松本：私は絵画の日下先生が懐かしいわ。奥さまは国語の藪中先生でした。戦後しばらくぶりにクラス会で、藪中先生が「みなさんの絵を預かっていました。今日、お返ししたいと思うのですが」とおっしゃった。私にも作品を返して下さいました。生徒の絵と云ってもただの紙よ。空襲の中でご自身の命を守るのも大変だったと思うの。その中で先生はずっと身につけて持ち歩いたのだと話されました。守り抜いていただいたもの、その価値を実感しました。事実、焼け出された私たちはみんな焼いてしまっていて、絵は誰も持っていなかった。先生に守り抜いていただいた絵にただ感動しました。

星野：私は大和田愛羅先生、「今は山中今は浜・・・」という「汽車」を作曲なさった方です。大きな教室でした。「今は軍歌ばかりの時代だけれど、日本の作曲家の中にも優れた方々がいる。そういう方が生み出した和音の素晴らしさもあります。これは皆さまも身につけておくべきです」と、「海ゆかば」に秘められている高音から低音の和音の素晴らしさを教えてくださいました。

——「海ゆかば」は世界の軍歌の中でも名曲と云われるくらい、和音の素晴らしい曲と云われています。和音の素晴らしさ、教えてくださった先生、ほんとうにすごいですね。

通学の思い出

城戸崎：誠之小学校に通っていたころは本郷に住んでいましたが、第二高女に入学した頃は、その近くの家に移っていました。本当は電車に乗って通いたいと思っていたのです。

松本：幸せよ、電車通学は大変。私は本郷神明町に住んでいたのよ、市電通学。それはもう、市電にぶら下がって乗ったりしたのよ。今思えば歩きが正解だったわね。その頃、市電の運賃は7銭（現在の250円くらい）意外に

高いのよ。

星野：戦災で小日向台町の家が焼けると、辻堂から通いました。鎌倉に住む深山さんという同級生がいて、時々大船まで一緒に帰りました。私たちは最後に乗り込むの。客室には入らないでステップに並んで座り、大声でデュエットをするの、それは楽しい思い出。走る列車を風が吹き抜けていき、走行音はどんな大声もかき消す。誰の邪魔にもならない訳で、声を限りに歌い続けました。「希望のささやき」とか、楽しかったわあ。

女学生の反乱？

城戸崎：私たちは修学旅行に行けなくて、ストライキを起こしたの。朝礼で行けないとわかって、朝礼が終るやいなや、みんなでわーっと植物園に行っちゃいました。だいぶ話題になって、朝日新聞が取材に来たようでした。新聞に出たらたいへんだったでしょうね。私たちだけ修学旅行に行けないなんて、いやだ、という思いが共感を呼んだのね。

星野：私たちの頃、体制が弱いから、納得できなければ、声をあげる、するといくらでも改革できる状況でした。頑迷なPTAの会長、教え方が下手な偉い数学の先生、クビにしたりしたの。

お作法室だか被服室だか畳敷きのお部屋がありました。卒業式の後、みんなでそこに立てこもりました。ポータブルのプレーヤーを持ちこんで、「古き花園には・・・ジャジャン！」とみんなで踊ったのです。先生方から「帰れ」と云われても、部屋中のテーブルを積み上げてバリケードにして「先生は入れないぞ」と。先生が「開ける」と言っても、「だめー！」でした。それにしても踊れる曲などあまりなくて、高峰三枝子とか「バラのタンゴ」とか4、5曲をレコードをすり切れるほどかけて踊りました。

先生方は廊下で寝ずの番、何かへんなことが起きたら踏みこもうという状況でした。中の私たちは夜中に帰ったら危ないから、明るくなったら帰りましょうと。

改革の時代だったのです。やっと人権の主張が生まれ、「これが人間の権利だ！」でした。

武勇伝？

星野：私には「バスケットが命」という時代がありました。目指すは学校の体育館一番乗りです。そのために辻堂発6時05分の電車に乗るのです。電車は混み合っています。窓から飛び乗るのは当たり前。それで体育館に一番乗り、ボールを磨き、ターザン映画のような長い吊り輪にぶら下がり、身体を動かしてから、授業を受けました。放課後、バスケットをやり、また湘南電車で辻堂に帰るのです。毎朝、親からふかしたさつまいもを二袋渡されます。ひとつはお昼、もうひとつは東京駅で電車に乗る前に食べるものでした。親のない子達がいる、わーっと寄って来ては勝手に持って行く。そうなるとお腹はすくし疲れが出る、やがてぐっすり寝込んでしまいます。気が

つくと辻堂を過ぎ、平塚の手前の馬入川鉄橋、そのおおきな音と振動で目が覚める。平塚の駅員さんが「あんた、また乗り越したのか」って。あるとき、遅い時間で、もう帰る電車がなかった。乗り越した客を泊める旅館があり、変なおじさんが「おじさんの部屋で寝ればいい」と言い連れて行かれました。旅館の女中さんが階段の下の戸袋のような処を用意してくれ「あのおじさんのところに行くんじゃないよ」と寝かせてくれました。翌朝そのおじさんは辻堂まで送ってくれて、両親に「昨晚は何ごとでもございませんでした」と報告までしてくれた。それから学校に行きましたから、本当に体力があったのですね。

城戸崎：それに比べると、私たちはほんとうに「深窓の令嬢」だったわね。

星野：戦争経験から、みんな上品に構えてはいられないと変わったのでしょうか。

クラスのまとめ

星野：私たちのころは、白組は白組、紅組は紅組、というように、隣のクラスのことはまったくわからない状況でした。言葉をかえるなら「排他的」でした。授業中空襲警報が鳴ると、防空壕にという日々だったので、クラスメートとの団結が家族以上のものになっていきました。クラスには個性があり、私のいた白組は民主的で、「これがわからない」と云えば、寄ってたかって(?) みんなで助ける、だったのです。クラス全体の成績はとてもよく、団結力のあるクラスでした。

第二高女の校歌

——高女の校歌はキイが高いので、篁寿会で使っている伴奏は3度下げたとか。

松本：若かったのね、みなさん高い声までよくでたもの。第二高女の校歌は、「春の小川」「春が来た」「故郷」「朧月夜」で知られる岡野貞一さんの作曲。在校中は、4番までであるのに総会などでは、1番と4番だけしか歌わない。だから、篁寿会では省略しないで全部歌いたい、と思っているのですよ。

——篁寿会ではフルコーラス伴奏のCDも用意されています。すばらしい校歌をずっと歌い続けて残していきたいと思います。

楽しいお話をありがとうございました。



第9回篁寿会開催

おなじみになった学士会館の会場で、2015年10月10日(土)、第9回となった篁寿会が46名の参加を得て開かれました。今年は篁62回生・川村太枝子さんのバイオリン、鎌倉女子大准教授のポップ晶子さんのピアノの演奏をお楽しみいただきました。サプライズで松本紀子前会長がMy Wayを歌ってくださったときには、91というお歳を感じさせない美しい歌声でみなびっくり！

恒例の抽選会の賞品も、71回生・高倉孝生さん(ライオン)、同・篠辺修さん(全日空)ほか、篁寿会メンバーからもご提供をいただきました。いつもありがとうございます。

また、第二高女記念碑のメンテナンス基金へのご寄付36,000円も集まりました。確かにご預かりいたしました。

次回は第10回になりますので、なにか特別な企画を、と考えております。たくさんのご参加をお待ちしております。



第10回篁寿会は

2016年10月22日(土)
会場はいつもの学士会館です。

平成27年度「篁会総会・懇親会」報告

平成27年度の篁会総会・懇親会は、6月7日(日)に東京・神保町の学士会館210号室にて開催されました。各役員、当番幹事の高校25回生(篁73回生)を中心とした積極的な呼びかけにより100名を超える144名の出席者で盛大に開催されました。



総会

篁73回生の酒井光彦さんの司会により開会した総会は、篁77回生の古関恵一会長の～参加者の70年間という広いスパンでの交流と次世代に繋がる篁会を～という御挨拶から始まりました。続いて篁69回生副会長の吉岡新が議長に選出され、役員紹介、新任理事の承認、理事会報告、平成26年度事業報告、会計報告、監査報告、平成27年度事業計画案、同予算案等の報告等があり承認されました。今総会では、会則の一部変更(役員の名称・年会費等)の提案が行われ、発言者の～次世代に繋がる篁会を～という熱い思いの込められた議論が行われ、一部挙手による採決も行われた結果、提案通り承認されました。

講演会

篁73回生で独立行政法人産業技術研究所・環境管理技術研究部門副研究部門長の近藤裕昭さんを講師に「大気環境改善への努力と地球温暖化影響予測」と題した講演が行われました。近藤さんは日本における大気汚染問題について国の機関で研究を続けておられ、これまでの技術開発による改善、日本での地球温暖化の影響予測状況等を判り易く説明されました。PM2.5等我々の興味ある内容も多く、大変有意義な講演会となりました。

懇親会

古関恵一会長の御挨拶、御来賓の竹早高等学校・高田純一校長の挨拶、篁50回生の金子尚子さんの乾杯の後、会食、懇談へと移りました。今回は、新卒の篁115回生の出席もあり年齢差が70もある老若男女が和やかに歓談をすることとなりました。しばらくの歓談の後、現役のダンスパフォーマンス部のビデオ放映が行われました。竹早高校ダンスパフォーマンス部は、近年目覚ましい活躍で、全国大会出場はもとより「高校生ダンスコンテスト'14夏」優勝といった成績を残しているクラブです。澁刺とした顧問の山内弥生先生のお話をお聞きしながら、一同自分たちの高校時代のクラブ活動に思いを馳せながらビデオに引き込まれていきました。

その後来賓の濱和廣先生の御挨拶とハーモニカ、土屋正孝先生の懐かしいお声の御挨拶をいただき、ますます高校時代に戻ったような時間を過ごしました。そのような中で、篁72回生の川口幸子さんのヴィオラ・篁75回生のしゅうさえこさんのボーカルによるジョイントコンサート「ヴィオラと歌の夢紀行」が始まりました。最初は静かに聞き入っていた方々も、お二人の上手な先導もあり、『花は咲く』では全員立ち上がり、全員で手話の身振りをつけながら、隣の方と楽しそうに歌い始め最後は大合唱となりました。そして、そのまま校歌の斉唱となり楽しい懇親会もお開きとなりました。

横山 公志 (高校25回生・篁73回生)



箠会教育基金・奨学生認証式

箠会教育基金による奨学生への奨学金授与は、2012年度から行われております。竹早高校の在校生が将来の夢を実現するための助けになればと開設された制度です。2015年度も6月上旬に募集を行い、7月に竹早高校で奨学生の候補者を選定していただきました。竹早高校の総務担当主任若杉良一先生には、募集から選定まで大変お世話になりました。ここに御礼申し上げます。

竹早高校との打ち合わせの結果、3人に奨学金を授与することとなりました。3年A組大森美樹さん、黒崎帆奈海さん、F組古川雅基さんです。3人にはそれぞれ8万円の奨学金が授与されました。勉学を進めるうえで役立てていただければ幸いです。

7月14日に古関恵一箠会会長から一人ひとりに認定証をお渡しし、記念撮影をいたしました。卒業後はぜひ箠会の活動にもご参加いただき、同窓生とともに竹早高校の益々の発展に寄与していただけるものと期待しております。（箠会教育基金事務局）



後列、左から大森美樹さん、黒崎帆奈海さん、古川雅基さん



関西箠会だより

関西箠会 幹事会

極端な寒さと暖かさが繰り返す不安定な気候ですが、皆様お変わりないでしょうか？

平素から関西箠会の活動へのご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

平成27年度の関西箠会総会は11月29日(日)にホテルグランヴィア大阪で開催されました。

今回は10名と少人数でしたが新たに高女43回卒業の小松靖子様が奈良県へ転居され初めて参加されました。いつものように高女出身の先輩方の学校生活、青春の思い出を興味深くお聞きし、また、全員の近況をお伺いし、予定の2時間があっという間に過ぎてしまいました。



関西箠会は近年総会の出席者が減少しており、来年度からの運営方針についても悩ましく思っておりますが、極力長く続けていける様幹事一同願っています。

平成28年度の関西箠会総会は平成28年11月26日(日)に同じくホテルグランヴィア大阪で開催の予定です。関西圏の皆さんはもちろん全国各地からの多くの方々の参加をお待ちいたしております。最後に箠会の一層のご発展をお祈りいたします。



湘南箠会だより

影本 昌則 (高校6回生・箠54回生)

2015年5月15日、総会・懇親会を、例年通り「鎌倉プリンスホテル」で行った。今回も高女ご出身の方4名のご出席があり、大変楽しい会となった。なお、28年度の総会・懇親会は、5月12日(木)12:00、「鎌倉プリンスホテル」で行います。



第8回 篁会特別セミナー報告

実施日：2015年7月14日（「陶芸の仕事」のみ7月11日実施）

『特別セミナーについて』

飯塚 均（高校 29 回生・篁 77 回生）

篁会では毎年7月上旬に「特別セミナー」というものを開催しています。社会人の卒業生が来校し、自分の仕事について説明するものです。

仕事内容はどういうものか、面白さややりがい、または大変さやつらさはどういうことか、どうしたらその道に行かれるか、適性や能力、大学や学部、そしてどのような高校時代を送ったら良いか、などを話します。話し手は30～60代の20名前後で、平日の5・6時限で基本的に2回ずつ、計40講座前後のうち生徒には希望の2講座を聴いてもらっています。内容（仕事の種類）は、教師、出版、翻訳、国家公務員（外務省）、医師、科学研究、大規模小売、商社、海外プラント事業、芸術家（陶芸）、音楽家、アナウンサー、俳優、広告クリエイター、保険、治療家、などです。

開催の理由ですが、後輩である現役高校生にこの先の人生の目標としてどのような仕事や道があるのかを少しでも多く事例として知ってもらい、そのための準備が早くからできれば効率的で充実した人生が送れるであろう、そうあってほしい、という思いによるものです。さらに、具体的なモチベーションをもって進路を早めに決定し受験準備も進められれば進学実績も上がり、生徒にも学校にも望ましいだろう、という期待もあります。

すでに8回8年ほど開催していますが、生徒、保護者、教師、教育委員、そして話し手自身からも好評を頂いています。私自身も話し手と実行委員をやっており、毎年やりがいと楽しさを感じています（運営は大変ですが…）。と同時に毎回思うのは、こういうものが自分の高校時代にあったら良かったのに、ということです。

よく、子供の頃の夢をかなえることが素晴らしいことだ、というような話を聞きますが、私は必ずしもそう思いません。子供の頃や学生時代は、将来の展望や人生設計などについてはあまりに無知で貧弱で漠然としたも

のだと思います（私はそうでした）。まず世の中には具体的にどんな仕事や会社があるのか、どんな内容なのか、どんな道をどう歩んでいったら良いのか、ということをはほとんど知りませんし、学校でも教えてくれません。結局は身近な事例や自らの貧しい視野見聞しかベースになりえず、極めて限定的な条件の中で大学受験や将来のことを決めていく、というのが現実でしょう。そんなことで本当に充実した納得できる人生を送れるのか、選択肢があまりに少なすぎないか。

とりあえずは大学進学が目標でその先はさほど考えていない、という高校生がほとんどかと思いますが（私はそうでした）、大学の先には仕事があります。仕事というのは何十年もの年数・人生の大部分を過ごすものといっいでいいでしょう。もちろん仕事への知識習得は大学以降でも間に合いますが、大学に入った時点でかなり条件は絞られています。焦ることはありませんが、早めに考え決められる時間が長ければ、それに越したことはないと思うのです。

現在はネットの発達で情報や知識を得る機会は格段に増えていますが、それでも（だからこそ）具体的な生の話や生の知識を得る機会はなるべく多い方が良いと思うのです。実際に仕事をしている、高校の先輩という身近な人達からの話は、必ず参考になる貴重なものだと思えますし、それをもとにより多くの知識と選択肢を持ってもらいたいと思うのです。これは高校生に限らず社会人にも言えることだと思います。他の講座をいくつか聞きましたが、参考になる面白いものばかりで、自分の人生も考えました。将来を決める時点で、もっと多くの知識と選択肢があったらなあ、と。

このセミナーはできれば竹早高校だけでなく、全国的また全世代的に広めてもよいものではないかと考えています。このような素晴らしい機会を与えてもらったことに感謝して、この文を締めくくりたいと思います。ありがとうございました。

7月上旬の「特別セミナー」では平日の5・6時限で基本的に2回ずつ、計40講座前後のうち生徒には希望の2講座を聴いてもらっています。



アナウンサー



プロジェクトマネージャー



医師医学研究



化学者



会計士



広告会社



航空会社



治療家



獣医師



外交官



企業研究・開発者



芸術(陶芸)



建築デザイン



商社



小学校教師



大規模小売



俳優



保険代理店とブランチ



留学と海外への就職

篁会特別セミナー『話し手』

氏名	セミナー題目	お話の内容（仕事の内容）	卒業年度	最終学歴など
廣瀬 愛子	「外交官の仕事」	外務省は、日本の安定や発展等を考えながら、外国とのつきあいが上手に進むように取り組んでいます。そのため日本だけではなく、海外で働くことが多くあります。外交官は、自国の考えを主張するだけでなく、相手国の主張の背景等も考えながら、互いにとって利益となるような関係の土台を作る役割を担っています。	1993年 (平成5)	上智大学法学部 国際関係法学科
泉 美知子	「建築・デザインの仕事」	(事務局より) 大学で建築・デザインを勉強した後仕事をし、最終的に同じ大学の仲間と端木工房という会社を作られ、美術館や公共施設の建築に携わった。セミナーでは、ご自分の作品を含めて、数多くの写真をご照会し、建築・デザインの魅力をご紹介します。キャリアパスについてもお話されます。竹早卒業の女性の職業観にも触れる貴重な機会と思います。	1965年 (昭和40)	日本女子大学 家政学部
佐藤 哲夫	「商社の仕事」 ～その魅力と意外な仕事～	(事務局より) 商社は、一般に知られている仕事とは違う職種だということをお話をさせていただきます。商社に入らな、専攻は?語学力やコミュニケーション能力は?などの疑問に答えます。就職までのキャリアパスのお話があります。商社員として苦労したこと、感動したこと、アドヴァイスなど先輩ならではのお話が聞けますよ。	1977年 (昭和52)	慶應義塾大学 法学部
山本 剛和	「獣医師の仕事」	(事務局より)「獣医師の仕事とは」を、動物病院での手術機械などの映像を交えて紹介します/仕事の様子の紹介や社会でのさまざまな活躍の場の紹介/キャリアパスなどの紹介が聞けます。	1988年 (昭和63)	日本獣医畜産大学 (現日本獣医生命科学大) 獣医畜産学部 獣医学科
水田 茂夫	「留学と海外への就職」	(事務局より) 71回生の水田さんは、現在投資コンサルタント会社の上級役員をされています。「留学を志す」「外国の会社に就職する」「外国に永住する」「日本人と外国人」などについてお話されます。英語だけは勉強しようの観点で英語の勉強法も伝授していただけます。	1971年 (昭和46)	東京大学教養学部 スタンフォード大学大学院
北村 健史	「企業研究・開発者の仕事」	私は入社以来、眼の網膜を対象とした医療機器の開発を行っています。製品設計だけでなく、将来の製品化を目指した新規技術開発も行いました。また最近国内及びUSAの大学との共同臨床研究にも従事しています。これまで私が経験した企業における製品開発設計業務、プロト機の開発及び共同臨床研究等について紹介し、企業の研究開発について話をします。	1977年 (昭和52)	上智大学理工学部 電気電子工学科
飯塚 均	「治療家の仕事」	医者ではないが、人体のことを良く知り、薬も手術も無く人の体を治す。または病気と判定される以前の不調も治す。さらに、美容や骨格矯正や運動能力の改善もできる。こんな幅の広い面白い業務です。社会人経験の後に入ることも十分可能です。知っているようでよく分からない、治療家の仕事を紹介します。	1977年 (昭和52)	埼玉大学 経済学部 経営学科
鈴木 克洋	「航空会社の仕事」	飛行機は様々なスタッフの力で、お客様が安全かつ快適に目的地まで到着できるよう、チームワークで仕事しています。今回は裏方の話を中心に仕事の魅力を伝えます。皆様に質問です。「航空機は事故の際に〇〇秒以内に緊急脱出できるよう設計されています」(答えはクラスで)	1988年 (昭和63)	中央大学 商学部 経営学科
國田 圭作	「広告代理店の仕事」	広告=テレビCMやWEBバナーを制作する仕事、と思っている人はまだまだたくさんいます。それも広告会社の仕事の一部ですが、部品のひとつにすぎません。そもそもどんなマーケティングを実現し、世の中の変化をどうつくり出すのか?という大きな構想、設計図を描くのが広告会社の本業。目指すのは「世界一級のマーケティング・カンパニー」です。⇒「未来を発明する会社」へ・・・「広告」という仕事のこれからは話そう。	1978年 (昭和53)	東京大学 文学部 美術史学科
秋元 哲夫	「医師・医学研究者の仕事」	(事務局より) 秋元さんがなぜ、医者を目指すと思ったか、医学研究者・医師になるとはどういうものか、について主に話をさせていただきます。Agendaは下記です。 ◆医者を目指すまで～自分が医学部受験に目覚めた瞬間とは ◆医学の専門分野の特徴とは ◆放射線医学(がん治療)とは/そのやり方と困難さ ◆米長永世棋王(将棋)との出会い～主治医としての想い	1977年 (昭和52)	群馬大学医学部 医学科
加藤幸太郎	「化学者の仕事」	生物系化学者の役割、仕事、活躍の場、またその一職種としての薬剤師の役割や活躍の場、機能性化合物としての薬剤開発について/仕事を進める上での心構え、この職業に付くためにどのようにすれば良いか などについてじっくりお話をさせていただきます。生物・化学系で理系の研究者を目指す方には必見でしょう。	1972年 (昭和47)	東京大学薬学部
山崎 憲一	「プロジェクトマネージャーの仕事&学ぶ意義とは」	エンジニアからスタートしてプロジェクトマネージャーを経験したが、プロジェクトマネージャーの仕事を紹介しつつも、今回は、「社会での仕事とは?」あるいは「なぜ高校で学ぶの?」といった点を一緒に考えてみよう。(哲学的というか、すしこ深い内容を含みます)	1977年 (昭和52)	早稲田大学 理工学部
橋本 正己	「会計士の仕事」	(事務局より) 弁護士と並んで専門性の高い職種である会計士の仕事内容、及び会計監査法人の仕事についても紹介させていただきます。資格を取って仕事をしたらどうかと考えている皆さんには参考になるセミナーでしょう。主な内容は、会計士の仕事とは/資格を活かすには/仕事のおもしろさ/キャリアについて/グローバル時代を生きる諸君へ 等の予定です。	1971年 (昭和46)	早稲田大学 商学部
内多 勝康	「アナウンサーの仕事」	(事務局より) NHKアナウンサーの内多さんをTVで御覧になった方も多数いらっしゃると思います。セミナーでは、「アナウンサーの仕事とは」「アナウンサーになるには」「面白い点」「苦労したこと」「キャリアパス」「後輩へのメッセージ」について話をさせていただきます。話すことについてプロである内多さんの興味をそらさない話しぶりに触れることができます。	1982年 (昭和57)	東京大学 文学部
西海 真理	「俳優の仕事」	セミナーでは、これまでにに行った活動を中心に紹介します。他人を演じることで安心し、演じることで、シーンを作ることを楽しみながら、人の気持ちを理解し、自分の思いをきちんと伝え、あたらしいものを協働で生み出していく喜びを伝えたいと思っています。	1968年 (昭和43)	東京理科大学
岡田 晃明	「大規模小売りの仕事」	(事務局より) 普段、なかなか他では聞けない内容です。過年度のセミナーでは、「商売ってこんなに面白かったんか!? 目から鱗の新常識!!」「セブン&アイは何故CMにAKB48を使うのか!」等の話などを含めて、話されました。判りやすく密度の高い岡田さんのお話は、興味をまた絞ってはいない文系の方にもお勧めです。「勇気」をもらえる45分と言えましょう。今年はどういう内容にナルでしょうか、お楽しみに。	1977年 (昭和52)	慶應義塾大学 経済学部
仲矢 優子	「小学校教師の仕事」	竹早で決して優等生ではなかった私が、ひよんなことから小学校教師になって早34年。色々なことがありましたが、いつも思うのは「子どもってすごいな。子どもにはかなわないな。」ということ。大変なこともありますが、その何倍も喜びがあります。そんな教師の舞台裏、お聞かせします。	1977年 (昭和52)	東京学芸大学 教育学部 小学校国語科
香川 洋子	「保険代理店とライフプランナーの仕事」	「何だかめんどくさくさ〜、保険って?」そうですね。もっと言えば「入りたくないのに、入らされちゃった、保険屋さんに!」みたいな。でも、もしかしら「えっ、もっと知りたい、保険の事!!」何?ライフプランって、それって、得じゃない!!になるかもです。このセミナーを聞いた後、「私、保険の仕事がしたい!!」と一人にでも思ってもらえたら嬉しいです。	1968年 (昭和43)	青山学院大学 文学部 日本文学科
伊藤麻沙人	「芸術(陶芸)の仕事」	(事務局より) 伊藤さんは、100周年記念のモニュメントの「夢の風に乗って」の共同制作者でいらっしゃいます。第二高女・竹早の100年を踏まえて、笛を吹く少女の姿に、これからの100年の荒波を涼やかにたくましく生きていく若生をイメージしていただきました。手に触れる芸術の価値、工業製品に囲まれた価値観を打ち破る陶芸・芸術の奥深さを体感する、特別な土曜日の120分です。	1968年 (昭和43)	東京芸術大学 大学院陶芸専攻

講

師

募

集

母校の生徒に講義を

～竹早高校で『特別セミナー』を開講します～

箠会では毎年、竹早高校の生徒たちに特別セミナーを行っています(本会報20～22ページ参照)。

講師は、種々の分野で活躍している先輩の皆さんにお願いしてきました。現役の竹早高校生が進路選択の参考とするためのお話しをして頂くものです。

今年は、7月19日(火)の午後の時間帯で、対象は1年生になります。

講義では、経験した職業を選択した経緯、その職業に就くために進学先をどのように選んだか、そしてどんな勉強をしたか、その職業で経験した楽しかったことや苦労したこと等について語っていただきます。

講師に応募されますと箠会では講師支援登録をおこないます。今年は日程等の問題で参加できない方でも登録をお願いします。次の機会もありますので後輩のためにご協力をお願いします。

連絡先: 薩田須美子 TEL 090-8853-1901

E-Mail: takamurakai@gmail.com



“私たちの竹早”

そんなテーマで本の制作を 企画しています

あんなことあったよな、やったねと感激したこと、心のひだに刻まれた思い出の幾つか、ちょっとペンを取って、箠会までお知らせくださいませんか。原稿でなく、メモで結構です。小さなできごと、名物先生の授業やそこにいた仲間、なにかを求めて汗したクラブの思い出など、なんでもいいのです。それが竹早高校の歴史の一コマに続いていると感じています。ささいなできごとが人生の大きな経験となって今の私たちに繋がっています。

2016年10月末日までにお寄せ頂いたなかから、抽選で20名の皆様に箠会よりささやかなお礼の品を贈呈します。ふるって情報をお寄せ下さい。また、この本づくりに関わりたい、と思ってくださった方もどうぞご連絡ください。お待ちしております。

<メモの送り先>

メールの場合: takamurakai@gmail.com 件名に【出版】とお書き添えください。

郵送の場合: 〒101-0021 千代田区外神田5-2-3 JR外神田ビル

プロックス 古山気付 「箠会出版委員会」宛

箠会 出版委員会

今年も『学年幹事・部活幹事連絡会』に参加しよう

連絡会は昨年7月11日に、17部の OB・OG会から25人の幹事の方々が参加を得てキックオフしました。

各部活から活動の現状を報告していただきましたが、その中でバレーボール部及びブラスバンド部から、毎年卒業生を迎えて名簿を更新していること、また定期的活動を行っているとの報告があり、他の部活はこれを参考として活動を活性化していくことを申し合わせました。

今年は、一年間の活動報告と、新たなメンバーの参加拡大をめざして開催します。高校の思い出だけを携えてブラッと気楽に来てみませんか、お待ちしております。

また、新しい企画として、3月13日に高校67回生(2015年卒)の方々による座談会を開催し、未来や夢を思い切り語って頂きました。



部活幹事連絡会の模様

第2回学年幹事・部活幹事連絡会を以下で開催します

- 日時: 2016年9月3日 17:00から
- 会場: 文京区役所となり講道館地階
レストラン『じぇびあん』
- 会費: 2,000円

連絡先 薩田須美子
TEL.090-8853-1901
E-Mail. takamurakai@gmail.com

校章入りの**箠会Tシャツ**をふたたび。在校生への奨学金にご協力を!

1枚2,000円ですが、制作実費、送料などをひいた純益は、箠会教育基金に入れられ、在校生への奨学金の原資となります。ぜひご協力をお願いします。

今回はやさしい色合いのものを用意しました。従来の黒などもご注文をお受けします。

胸に校章三つ、背中側の裾に校歌の「たずさえて友と・・・」からhand-in-handと入れました。

ある程度枚数がまとまったところで発注しますので、少しお時間をいただくかもしれません。

ご希望の色・サイズ・枚数でお申し込みください。

ご注文は箠会のウェブサイトからクレジットカード決済でお受けします。

郵便振替をご希望の方は、**[00100-6-671972 箠会]**へ連絡先電話番号明記の上お振り込みください。

なお、お問い合わせはメール:**takamurakai@gmail.com**へ**[Tシャツ]**と書いてお送りください。

たくさんの皆さまの奨学金へのご協力をお待ちしております。



⑥白



サイズ(ご参考)とカラー ①~⑤は1枚目の写真で、⑦~⑫は色見本の写真をご参照ください。

サイズ	着丈	胸囲	肩幅	カラー (番号でご注文ください)			
S	68	40	62	①水色	④ベージュ	⑦黒	⑩グリーン
M	71	42	63	②ピンク	⑤黄緑	⑧赤	⑪オレンジ
L	73	44	64	③グレー	⑥白	⑨紫	⑫ブルー

※その他のサイズ(XL, XS)もご注文を承ります。

「ユニットもりくらゆり www.morikurayuri.net」

小野（山口） 順子（高校28回生・箏76回生）



photo© 國貞 幻矢

ある日曜日、3年D組クラス会メーリングリストに「二胡のコンサートやるから聞きに来てください」という案内が流れた。読んだ途端、イケル！と閃いた。ほどなく集まった3人は、初めてとは思えぬほど息がぴったり。私が10年近く温めてきた夢のコラボレーション「ユニットもりくらゆり」誕生の瞬間である。もりこと、森岡静江さんは高校時代からの趣味だった書道一筋、日展入選を果たし、海外での展覧会経験も重ねている。くらこと、出倉均君は洋楽器をほとんどマスターしたのち、悠久の音をかなでる二胡の世界に耽溺し、自ら率いるグループコンサートのほか舞台と聞けば東奔西走。ゆりこと、長岡ゆりさんは現代アートの身体表現ジャンルである「舞踏」の第一人者として、国際的に活躍している。彼女が竹早の第2回創作ダンス発表会で披露した、全員黒のレオタードに黒ストッキングという、当時としては前衛的な演出と振付に全校驚愕した、秘かな伝説も存在する。

旧知の伊藤恭子さんにご相談したところ、彼女が代表を務める、脳障がい者支援団体のダイヤモンド東京パイロットクラブ主催「秋のチャリティ公演会」への出演が実現した。伊藤さんのお母様も第二高女

のご出身という奇縁もあり、また、初対面にもかかわらず箏会の諸先輩も快くチラシの配布などお力添えいただいた。小雨交じりの2015年10月17日、霞が関ビルプラザホールで、担任の濱和廣先生はじめ、3年D組有志の諸氏が駆けつけてくれた。竹早祭の映画「ブルータス 血文字の謎」の製作上映で培った結束力が瞬時に蘇り、心配だった舞台設営もスムーズに終了。出倉君と彼の率いるSHIOSAIグループの中国古楽器演奏とともに、もりの大胆な書の揮毫、そして会場狭しと縦横に動くゆりの舞踏が造りだす、幻想的な空間のなか、固唾を飲んで上手の陰にいた私は、満場の強い視線と熱気に圧倒されながらしばし時を忘れた。

竹早縁の多くのご協力に深謝するとともに、感動と生きる勇気をもたらした、との反響の大きさに、アートパフォーマンス「再会」もエネルギーを得て、次なる野望を抱いている。



濱先生を囲んで3年D組の面々と筆者（前列左端）

振り返ってみて

小笠原 公治 (高校17回生・簗65回生)



先日、竹早高校の前の、春日通りを通る機会がありました。校舎はすっかり新しくなり、在校中の面影はありませんでしたが、ヒマラヤ杉だけは、当時のままに、まっすぐに立っていました。今の自分の年から、18才を引いてみて、過ぎ去った歳月の長さに、感慨無量でした。

学校の前に停まった都電や、男子の、その頃はまだ被っていた帽子、詰襟の学生服姿、憧れていた女生徒のブリーツスカートの子供服姿など、当時の事が思い浮かびました。女子の方が倍の生徒数で勉強も出来、男子は少し小さくなっていただけかも知れません。私も勉強はあまりしなかったもので、今でも数学の試験が出来ず、困った場面を思い出します。

その分、中学校からやっていた野球の部活だけは一所懸命でした。一番の思い出は、夏に行った下諏訪での合宿です。標高が高く空気が乾いているので、日陰に入ると少しは楽でしたが、それでも真夏の太陽の下、朝から晩まで野球漬けの一週間でした。

当時は、練習中には水を飲まないで、その我慢が精神力を強くするという、今では考えられない事が普通でした。そのため、グラウンドの外に出たボールを探しに行く振りをして、便所の水(手洗いの蛇口の水ですが)を飲んだ部員もいました。練習でしごかれた後、帰り道の牛乳屋で、牛乳やジュースを在庫が無くなる程、先輩におごってもらい、夕食の馬肉鍋もちゃんと食べた事など、良い思い出になっています。今の歳になっても、夏になると合宿の事を思い出し、暑さには強いんだと自分に言い聞かせています。

野球部の先輩、同期、後輩とは、途切れることなく、50年近くの付き合いを続けています。それぞれが、結婚し、子供が出来、今では孫の話になっています。還暦の祝いを順番にしているうちに、古稀の祝いが始まりました。このまま人生の終末まで、この付き合いは続きそうです。

顧問だった国広先生は、残念ながら故人になられましたが、命日に皆で墓参りに行き、元気な姿を報告しています。多感な高校時代に、一生付き合い続ける仲間を得られた事は幸せでした。

お休み処 たかむら

原田 恵子
(高校23回生・簗71回生)



2015年の竹早祭は9月12日(土)・13日(日)に開催され、例年通り簗会は「お休み処 たかむら」を出店致しました。12日は約700人、13日は約600の方が訪れて下さり、2日間で約2万3000円の篤志を頂きました。このお金は簗会が設けた「教育基金」に繰り入れられ、竹早生に返済不要の奨学金として贈られます。無料の休憩所ではありますが、これだけの寄付を頂き、ありがたく、また嬉しく思います。

毎年お手伝いしようと思いつつ、気が付いたら10月になっていたのですが、今年は7年ぶりに13日だけ、多少なりともお手伝いすることが出来てよかったです。

大きなペットボトルから紙コップに移しかえるのですが、相変わらず「なっちゃん」は人気でした。お〜いお茶、爽健美茶、ポカリスエットを大きく引き離して、ダントツのトップ、完売でした。もちろん、淹れたてのコーヒーも好評で、寄贈された2台のコーヒーメーカーがフル稼働していました。テーブルの紙皿に入れてあるお菓子があつという間に無くなっていて、慌てる事も度々ありました。今どきの子(年寄のセルフですね)はテーブルにあるものは全部食べなさいいけないとも思っているのかも。最初は少なくなったなと思ったら、お菓子を追加していたのですが、座っている時は無くなって追加しないようにしました。今年はお菓子里にちょっとしたサプライズを仕掛けました。激辛の煎餅です。これは残るかもと思ったのですが、これも含めてお菓子も見事に完売でした。

お財布やナント靴(玄関でスリッパに履き替えるのです)の忘れ物まであって驚きました。皆様取りにいらしてホッとしましたけれど、忙しいけれど充実した1日でした。次回も出来るだけお手伝いしたいと思います。皆様もぜひ、短時間でもお手伝いして頂けるとありがたいです。ホームページの「お問い合わせ」や裏表紙の電話などでご連絡下さい。勿論、お客様としても大歓迎いたします。お待ちしております。

学校の活動報告

箠会の皆様には竹早高校の教育活動のために、常日頃から多くのご支援・ご尽力を賜り、生徒及び教職員一同、深く感謝しております。

平成27年度は計19名の講師をお招きし、1,2年生を対象に箠会特別セミナー及び土曜セミナーを実施していただきました。今年は都教育委員会からの見学者もあり、各講師のお話は大変興味深く、生徒たちの視野を広げる契機となりました。竹早祭では、本年もお休み処「たかむら」で飲み物やお菓子を提供していただき、来場者をもてなしていただきました。また、3年生3名に箠会教育奨学金をいただき、感謝しております。

大学合格状況は表1のとおりです。国公立大、難関私立大とも昨年を上回る合格者を出すことができました。部活動では、ダンスパフォーマンス部が2年連続で全国規模の大会で優勝するなどの活躍が見られました。学校説明会等への来校者数は表2、入試の実質倍率は表3のとおりです。今年は募集人員増となりましたがほぼ例年通りの倍率を維持することができました。

今後とも、良き伝統を踏まえた竹早高校の教育活動をさらに発展させるために、引き続きご尽力いただきたく、お願い申し上げます。

平成27年度 年間行事 () は日付

- 4月** 土曜講習(4~)*1、始業式(6)、入学式(7)、対面式(8)、1・2年課題テスト(8)、2・3年保護者会(11)、健康診断・体力テスト(16)、生徒総会(27)、校外学習(28)*2
- 5月** 体育祭(8)、父母と教師の会総会(9)、竹早塾(16~2/27)*3、中間考査(28~6/2)
- 6月** 授業公開・保護者会(6)、3年進路オリエンテーション(22)、2年進路オリエンテーション(22)
- 7月** 期末考査(1~6)、1・2年模擬試験(10)、箠会土曜セミナー(11)、箠会特別セミナー(14)、終業式(17)、部活動夏季合宿(25~)*4、夏期講習(21~)、学校見学会(24~)
- 8月** 部活動夏季合宿(~3)*4、学校見学会(~11) British Hills団体宿泊研修(19~21)、夏期講習(~26)
- 9月** 始業式(1)、3年推薦・センター試験説明会(1)、1・2年課題テスト(1) 竹の子祭(10、11)、竹早祭(12、13)、1年宿泊を伴う防災訓練(25、26)
- 10月** 授業公開・学校説明会(3)、中間考査(20~23)、
- 11月** 模擬試験(4)、開校記念日(7)、体験入学・学校説明会(14)、国際理解講演会(16)
- 12月** 期末考査(8~11)、学校説明会(12)、終業式(25)
- 1月** 始業式(8)、学校説明会(9)、1・2年課題テスト(8)、2年修学旅行(沖縄12~15)
- 2月** 推薦入試(26、27)、1・2年模擬試験(28) 2年保護者のための進路講座(6)、1年学力調査(9)、
- 3月** 合唱コンクール(12)、学力検査(24)、1・2年進路講演会(29)、卒業式(5)、学年末考査(8~11)、2年模擬試験(14、15)、2年合格体験講演会(23)、修了式(25)

- *1土曜講習 予備校講師による大学受験に向けた英語・数学の講習 前期(4~9月)、後期(10月~2月)各10回実施
- *2校外学習 1年:長瀬 2年:横浜 3年:東京ディズニーランド
- *3竹早塾 父母と教師の会と卒業生が連携した考査前の生徒の学習支援5/16、23、6/20、27、10/10、17、11/28、12/5、2/27の全9回実施
- *4夏季合宿 参加者:13部、231名
サッカー、軟式野球、男子バスケットボール、男子硬式テニス、女子硬式テニス、ソフトテニス、バドミントン、男子バレーボール、女子バレーボール、吹奏楽、美術、天文、箏曲

表1 大学合格状況

国公立大学	H28	H27	H26
弘前		2	
東北		1	1
福島			1
筑波	6	3	1
茨城		1	
宇都宮			2
埼玉	9	6	7
千葉	6	8	5
お茶の水女子		1	
東京外国語	2	2	3
東京海洋	1	2	1
東京学芸	3	1	1
東京藝術		1	
東京工業		1	2
東京農工	2	1	3
電気通信	2		
横浜国立	4	2	1
新潟	1		
群馬	1		
山梨		1	
富山	2		
岐阜			1
神戸			1
香川		1	
長崎			1
前橋工科			2
琉球	1		
埼玉県立		1	1
首都大学東京	2	3	4
北九州市立		1	
防衛大学校		1	
看護大学校	2	2	
職能開発総合大学校	1		
国公立合計	45	42	38

表2 来校状況

	H27	H26	H25
学校見学会	1,930 (12回)	1,390 (10回)	1,414 (10回)
竹早祭	3,909	4,109	1,458
学校説明会	1,735	1,091	1,332

H25年度竹早祭は台風接近のため1日のみ開催

私立大学	H28	H27	H26
青山学院	24	19	29
学習院	10	13	19
慶応義塾	9	10	3
國學院	6	7	26
駒沢	18	17	12
芝浦工業	32	16	19
上智	16	9	6
成蹊	11	4	6
成城	8	12	9
専修	5	12	9
中央	34	25	17
津田塾	2	0	3
東京家政	9	13	4
東京女子	1	4	5
東京都市	10	6	9
東京農業	15	34	36
東京理科	22	15	27
東洋	76	86	52
獨協	22	*	11
日本	58	44	46
日本女子	8	11	8
法政	46	43	44
武蔵	13	23	12
明治	41	59	50
明治学院	13	17	38
立教	57	45	53
早稲田	39	25	31
その他	114	133	75
私立合計	719	702	659

数値は現浪の合格者数である。
H28はH28.3末の数値である。
H28年卒業生は7クラス(他は6クラス)
*はその他として集計

表3 入試状況(実質倍率)

	H28	H27	H26	
帰国	2.00	1.21	2.00	
推薦	男子	2.74	3.13	3.52
	女子	5.44	5.14	5.81
一般	男子	1.45	1.47	1.49
	女子	1.89	1.70	2.06
募集(クラス数)	7	6	6	

竹早高校から篁会へ

篁115回生
(高校67回生)

大滝 恒輝さん (筑波大学) 竹早在学中に生徒会長
松本悠希乃さん (明治学院大学)
秋葉 美穂さん (明治大学) 竹早在学中に生徒会の会計



2015年3月、竹早高校を卒業、篁会では、いちばん若い3人の会員に集まっていただきました。

——篁会は竹早高校の同窓会組織ですが、在学中の印象を聞かせて下さい。

秋葉：特別セミナーでは先輩の方々からお話を伺ったり、奨学生の募集が行われているのをみたりしていたので、漠然と先輩たちが私たちを応援してくれる組織だと感じました。



秋葉さん

——秋葉さんは卒業してすぐの篁会総会にいらしていただきましたね。

秋葉：ええ、たったひとりでしたが、結構楽しかったです。そのときに同じテーブルでいろいろお話しして、その後もその先輩とラインでやりとりするようになりました。

——将来の目標は？

大滝：僕は小学生のころ実験や、観察が好きで、いつも好奇心に満ちていました。そんな世界でなにかができれば、そう思ってから物理学者になろうときめました。その思いは今も変わりません。早く自分が取り組む研究のテーマを見付けたいです。



大滝さん

秋葉：私は数式を変化させて、答えを思考することに惹かれ、数学を選びました。研究の対象は幾何の分野か、数式を扱って論理を組み立てる代数なのか、専門とする分野はまだ絞り込めていません。数学のおもしろさを伝えられたらと教育の分野も含めて考えています。

松本：私は子供が好きで幼稚園の先生に憧れていました。大学もそうした分野を選択しました。去年の夏休み、東南アジアを歩き、現地の子どもたちの実情を見てきました。その現実教育の理想とはまるでかけ離れていました。ショックで自分の目を疑いました。それ以来、自分はそんな現実に向き合いたくありません。かをしたいと考えるようになりました。

——目標が変わったのですか？

松本：そうです、国際的な視野に立って幼児教育の勉強をしようと決めました。ある意味選択肢が大きく広がりました。そして、いろいろな国の子どもたちの現実をこの目で見て、自分の将来についてもよく考えようと思っています。

——素晴らしいですね、いろいろな未来に向かって考えて、行動する。そんな皆さんが篁会の活動に参加してくれたら、議論や活動が幅広く発展するのではないのでしょうか？

松本：大学に入って社会や学問に対する視野が大きく変わりました。その中でも友人は大切だと感じています。

秋葉：まず身近な友人たちと輪を作り、その輪を篁会と共有していく。そんな形で参加していけたらと思います。楽しそうです。



松本さん

——例えば、年齢の離れた友人がたくさん

できたら、別の世界が広がり、違ったものが見えるかも知れない。

松本：これまで、友人はほとんど同い年中心でした。年が違えば考えも異なる、いろんな考えを受け止めながら議論していく、なんだかおもしろそう。

——今年の総会は、皆さんも幹事学年になっています。ご存じでしたか。

大滝：いいえ。何かお手伝いしたいですね。

——総会準備委員会、少し厳めしいけど、先輩の皆さんが力を合わせて総会を計画しています。皆さんが参加してくれたらもっと楽しくなると思います、ぜひ。

秋葉：はい、できるだけ同期を誘って参加します。私たちが大勢参加すれば、次の学年も参加しやすくなるのではないかと思います。

松本・大滝：私たちも。

——来年は会報の編集委員会のおしごとにも順番になっています。あなたがたの意見を、若い人たちに発信してくれたら多くの共感が得られるでしょう、ぜひ力を貸してください。

大滝：そのページは自由に作れるのですか。まじで。

——まじでおねがいしますよ。

大滝：今、通学が大変で筑波の大学近くに下宿しています。時間が許せばいつでも参加したいと思っています。

新しい環境の中で、高校は思い出になってきています。でも一緒に学んだ友人達と顔を合わせ、一緒になにかやれば、未来に向かえます。

——そうです。「古い自分を忘れて、未来を拓いていく」ですね。

秋葉：力を合わせて協力していきます。

松本：いろんな出会いがあり、なんでも吸収していきたいです。

秋葉：力を合わせてやりたいです。

——来年のこの座談会の開催は皆さん中心で企画してくれますか？

全員：はい、また楽しみです。

——それでは、これからもよろしくお願ひします。

理事会報告

平成27年度の理事会活動は以下の通りです。

●第1回理事会 5月21日 出席理事会メンバー15名 委任状3名

1)承認事項

- ・今年度会報の8頁増のための予算増
- ・竹早祭の「お休み処」を出店
- ・特別セミナーの開催
- ・規程書類内の文言の修正・統一
- ・年会費を来年度から一口1,000円二口以上とする。
- ・第1回幹事連絡会の開催

2)報告事項

- ・記念碑の文字彫り直し経費の処理
- ・篁寿会進捗状況
- ・総会・懇親会進捗状況
- ・教育基金より今年度の奨学金授与について

●第2回理事会 7月28日 出席理事会メンバー13名 委任状4名

1)承認事項

- ・活性化プロジェクト提案
- ・各理事担務の確認
- ・竹早祭「お休み処」担当について

2)報告事項

- ・総会・懇親会 収支予算内で収まった旨の報告
- ・25名の参加者をもって7月11日に行われた第1回活動幹事会の報告
- ・7月11日、14日に開催された特別セミナーの報告
- ・奨学金24万円授与(3名に各8万円)
- ・9月より次号会報発行にむけて新体制の会報編集会議が始動

●第3回理事会 10月15日 出席理事会メンバー14名 委任状4名

1)承認事項

- ・篁会入会申込書の文面の検討
- ・会報:篁寿会の会員特集を企画
- ・各理事担務の確認
- ・新年会を1月23日理事会後に開催
- ・副会長推薦の件 中村光宏氏を承認
- ・新理事推薦の件 高橋政行氏 松永茂樹氏 小野順子氏

2)報告事項

- ・竹早祭「お休み処」:9月12、13日両日で約1,300名来場
- ・第9回篁寿会:10月10日に44名の参加者で開催
- ・議事録作成要領についての提案
- ・活性化プロジェクト進捗状況
- ・会計より来年度の予算折衝について

●第4回理事会 1月23日 出席理事会メンバー14名 委任状7名

1)承認事項

- ・教育基金・奨学生 理事会と奨学生が接点をもつ工夫をする。
- ・次年度のセミナー委員会の再構成と活動方針の検討
- ・総会の議事運営の検討
- ・次年度の「お休み処」、部活幹事連絡会の予算は昨年と同様とする。
- ・クレジット決済を可能にする会費納入システムを導入することとする。
- ・会報の頁割、不明者リストについて
- ・新理事推薦の件 川戸直美氏

2)報告事項

- ・10月22日に開催される第10回篁寿会について
- ・活性化プロジェクト・出版企画進捗状況
- ・会計より予算案について

●第5回理事会 4月4日 出席理事メンバー13名 委任状6名

1)承認事項

- ・会費納入方法について
- ・平成27年度収支決算案および平成28年度収支予算案を承認
- ・新理事推薦の件 高倉孝生氏(4月4日をもって監事辞任)
- ・新監事推薦の件 佐藤美紗子氏を承認

2)報告事項

- ・会報理事会頁について 最終割付の報告
- ・総会準備委員会からの進捗報告
- ・活性化プロジェクト委員会より出版企画についての報告
- ・特別セミナー委員会より平成28年度特別セミナーについて

<その他>

- ・4月7日 竹早高等学校入学式に参列
- ・5月8日 竹早高等学校体育祭出席
- ・6月7日 篁会総会・懇親会 学士会館
- ・7月11日 特別セミナー 「陶芸の仕事」
- ・7月14日 特別セミナー18講座・奨学生承認式
- ・9月12日/13日 竹早祭に「お休み処・たかむら」を出店
- ・10月10日 第9回篁寿会 学士会館
- ・1月23日 新年会(竹早高等学校、父母と教師の会からも参加あり)
- ・3月5日 竹早高等学校卒業式に参列
- ・4月1日 会計監査実施

篁会 平成27年度収支決算報告書(案)

平成27年4月1日より平成28年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	19,730,302	総会開催関係費	1,291,917
入会金:新入会員	2,112,000	贈呈記念品費	258,045
年会費	2,281,000	会報発行費	2,789,640
総会会費	992,000	Webサイト運営保守(*1)	666,144
諸事業収入(篁寿会会費)	368,000	総務費	154,011
受取利息	34,359	教育援助金	100,000
寄付(竹早祭時のワンコイン募金等)	89,606	奨学金	240,000
雑収入(Tシャツ・USBメモリ売上純益等)	143,000	諸事業経費(*2)	787,413
		次年度繰越金	19,463,097
合計	25,750,267	合計	25,750,267

次年度繰越金には下記を含む

周年事業基金	1,628,994
教育基金	1,388,763
(奨学金分減算・雑収入と寄付金53,606円加算)	
高女記念碑基金	243,600
(篁寿会より36,000円)	
基金合計	3,261,357

期末の現金預貯金等の残高 金額

現金	167,802
ゆうちょ銀行 通常貯金	4,455,607
ゆうちょ銀行 定額貯金	7,000,000
ゆうちょ銀行 振替口座	6,945,916
みずほ銀行 普通貯金	893,772
合計	19,463,097

(*1)には下記を含む

内 訳	金額
ドメイン維持費	4,320
年間保守料	648,000
Jimdoサーバ使用料	13,824
諸事業経費合計	666,144

(*2)には下記を含む

事業内容	金額
学年幹事連絡会関連	100,000
竹早祭出店企画	54,182
篁寿会	423,713
篁会特別セミナー	209,518
諸事業経費合計	787,413

(単位:円)

篁会 平成28年度収支予算(案)

平成28年4月1日より平成29年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金(*1)	19,463,097	総会開催関係費	1,300,000
入会金:新入会員	1,800,000	贈呈記念品費	300,000
年会費	2,800,000	会報発行費	2,600,000
総会会費	1,000,000	Webサイト運営保守	920,000
諸事業収入(篁寿会会費)	440,000	総務費	200,000
受取利息	1,000	教育援助金	100,000
寄付	250,000	奨学金	240,000
雑収入	100,000	諸事業経費(*2)	1,170,000
		次年度繰越金	19,024,097
合計	25,854,097	合計	25,854,097

(*1) 前年度繰越金には下記を含む

周年事業基金	1,628,994
教育基金	1,388,763
高女記念碑基金	243,600
基金合計	3,261,357

(*2) 事業内容検討案

事業内容	金額
総務・学年幹事連絡会関係	140,000
企画・竹早祭出店企画	70,000
企画・篁寿会(会費440,000円)	640,000
企画・篁会特別セミナー	120,000
企画・活性化プロジェクト出版	200,000
	1,170,000

(単位:円)

篋会の年会費、懇親会費はインターネットでのクレジット決済が可能になりました。

2016年5月1日から 新しいシステムが利用できます。

これまで、年会費、総会の会費は郵便局からの振替用紙で行われていました。これからは、それに加えて、インターネットを使って、クレジット決済が可能になります。パソコンやスマートフォンから簡単にお支払いいただけます。

システムのご利用方法は会報に同封されている[クレジット決済のご案内]をご参照下さい。

年会費は今年から2口以上となります。

クレジット決済の場合は、

2口以上の口数を入力してください。

また、今年の総会懇親会会費(7,000円)、Tシャツ購入の代金のお支払いもクレジット決済をご利用いただけます。

※クレジット決済の手数料は篋会が負担します。

郵便振替の場合は従来通り手数料をご負担ください。

篋会は会員の皆様の年会費で運営されています。

皆様方のご協力、よろしくお願いたします。



謹んでご冥福をお祈り申し上げます

■高女・専攻科

(敬称略)

篋会	回数	卒年	クラス	氏名	旧姓	逝去日
篋34回	高女34回	1934	甲	三宅 通	葛原	2014/5/13
篋34回	高女34回	1934	乙	安藤 夏子	小川	2015/8/21
篋34回	高女34回	1934	乙	土橋 和子	堀内	2015/1
篋36回	高女36回	1936	白	日下 道子	中西	2014
篋36回	高女36回	1936	紅	金松 孜子	高原	2010/11/17
篋36回	高女36回	1936	紅	徳永 蝶子	鈴木	2015/3/27
篋37回	高女37回	1937	白	岡田 米子	田地	2014/9
篋37回	高女37回	1937	白	金井 夏子	中田	2012
篋37回	高女37回	1937	白	芝池十三枝	黒崎	2015/1
篋37回	高女37回	1937	白	立原 静子	氏家	2014/11/23
篋38回	高女38回	1938	白	鹿江 政子	高橋	2015/2/4
篋38回	高女38回	1938	白	鈴木 聡子	松久	2015/1/12
篋39回	高女39回	1939	白	石川喜代子	大塚	2012
篋40回	高女40回	1940	白	大久保良子		2015/4/11
篋40回	高女40回	1940	紅	樹下 栄子	川島	2011/1/20
篋41回	高女41回	1941		衛藤八千代		2012/2/8
篋41回	高女41回	1941		関根小枝子	河守	2015/5
篋41回	高女41回	1941		山口喜久枝		2014/2/3
篋41回	高女41回	1941		山崎リリ子	沼澤	2014/4/12
篋42回	高女42回	1942		金沢美恵子	深澤	2012/3/26
篋42回	高女42回	1942		斎藤寿美子	岡澤	2014/5
篋42回	高女42回	1942		堤 秀子	白根	2015/2/16
篋42回	高女42回	1942		渡辺 愛子	谷	2015/2/13
篋43回	高女43回	1943		市村美奈子	清水	2014/8/6
篋43回	高女43回	1943		花田 淑代	小林	2014/8/25
篋44回	高女44回	1944		木内 昭子	上條	2015/9/8
篋44回	高女44回	1944		久保田節子	三橋	2015/11
篋44回	高女44回	1944		窪田 てる		2014/12/25
篋44回	高女44回	1944		長坂美那子	長坂	2014/12
篋44回	高女44回	1944		中村倭文子	依田	2015
篋44回	高女44回	1944		西村 章子	西村	2016/1/4
篋45回	高女45回	1945		佐藤 房子		2015/7/14
篋46回	高女46回	1945		老田 妙子	河中	2014/9/3
篋46回	高女46回	1945		小出 良子	村瀬	2014/11/11
篋46回	高女46回	1945		丹野美佐子	小林	2010/6/26
篋46回	高女46回	1945		松尾 淑子		2014/3/2
篋47回	高女47回	1946		小野千恵子	山田	2014/10/22
篋48回	高女48回	1948		大島 妙子	瓜生	2015/12/10
篋48回	高女48回	1948		川村美代子	西川	2014/4/6
篋49回	高女49回	1949		青木 穂子	内倉	2015/6/7
篋44回	専攻科1回	1944		唐沢 弘子	工藤	
篋44回	専攻科1回	1944		藤田 玉江	安間	2014/2/2
篋50回	高校2回	1950		山崎みさき	辻	2012
篋50回	高校2回	1950		渡邊 岑子		2014/1/19

■高校

(敬称略)

篋会	回数	卒年	クラス	氏名	旧姓	逝去日
篋51回	高校3回	1951	A	林 きぬ子	木代	2014
篋51回	高校3回	1951	D	漆間 和子		2014/3/28
篋51回	高校3回	1951	E	島田登美子		2014/11/15
篋51回	高校3回	1951	F	栗山 幸子	上野	2015/4/4
篋51回	高校3回	1951	L	池田 千枝	大塚	2015/5/13
篋52回	高校4回	1952		青木 知子	吉田	2013/5/28
篋52回	高校4回	1952		有賀喜久子	加藤	2014/12/14
篋52回	高校4回	1952		尾上 昌子		2015/1/8
篋53回	高校5回	1953	A	上野 桂子		2013/2/17
篋54回	高校6回	1954	D	奥谷 康一		2014/10/26
篋54回	高校6回	1954	D	小野 美子	木村	2014/2/23
篋55回	高校7回	1955	A	松平 寿治		2014/11/11
篋57回	高校9回	1957	E	栗原 義範		2015/12/1
篋58回	高校10回	1958	A	増田 昭子		2014/5
篋58回	高校10回	1958	D	狩野 初恵	浜	2012/2/12
篋59回	高校11回	1959	C	青木 太子	吉郡	2014/7/1
篋60回	高校12回	1960	A	上野 肇子	井田	2015/3/3
篋60回	高校12回	1960	D	菅原 捷雄		2014/3/10
篋62回	高校14回	1962	B	山口 陽子	石川	2015/2/14
篋63回	高校15回	1963	E	高谷嘉津子		2015/2/3
篋64回	高校16回	1964	B	甲神 岳		2015
篋64回	高校16回	1964	D	吉濱 一敏		2010/3/2
篋65回	高校17回	1965	B	滝内まり子		2012/2/9
篋68回	高校20回	1968	A	新 裕司		2014
篋68回	高校20回	1968	F	藤岡久美子	鈴木	2012
篋69回	高校21回	1969	C	松本 和子	田幡	2015/3/17
篋73回	高校25回	1973	B	野沢 厚子	山口	2013/5/19
篋74回	高校26回	1974	F	須田 成美	佐藤	
篋75回	高校27回	1975	A	柳内 啓一		2014/12/25
篋76回	高校28回	1976	F	内谷 静枝		2003/7/6
篋77回	高校29回	1977	D	海老三千代	井奈	2014/6/30
篋77回	高校29回	1977	F	八代 英美		2013
篋92回	高校44回	1992	F	鶴飼 正大		2015/4/21
篋109回	高校61回	2008	B	萩原 未来		2014/2

■教員

(敬称略)

氏名	逝去日
岩村 翠	2004
日下 栄	2014/5/3
山田 隆哉	2014/12/8

※Web同窓会システムでも確認できます。

※平成28年3月31日までにご連絡いただいた方を掲載しています。

東京府立第二高等女学校校歌

(明治40年4月制定)

1 み い つ か し こ き ら よ た の み や い く に の し る
 4 に お う つ き は な こ こ ろ も き よ く ひ い て た る

づ め の ふ し の か み や ま た な び く く も の
 や ま の お ぎ な み な ら ず た は と の 一 師 と 一 な り

は る け く ち か く あ さ ゆ う に あ
 は は と も な り て ま こ こ ろ に

お く も と お く と し め が ま の が ま の や
 に こ そ む く い め み こ と の ま に ま

畠山 健 作詞
 岡野 貞一 作曲

- 一、みいつかしこき 千代田の宮居
 国のしづめの 富士の神やま
 たなびく雲の はるに近く
 朝夕に 仰ぐも尊し
 我が学びのや
- 二、霞める空の 花のさかりも
 千里くまなき 月のけしきも
 上野はあれど 隅田はあれど
 みながらに 眺めぞつきせぬ
 我が学びのや
- 三、かかるめでたき 庭ふみならし
 むつびかいはして 生いたつ我等
 精心も技能もいよいよまきて
 もろともに 世にこそ示さめ
 女性のかよみ
- 四、匂う月花 精心も清く
 秀でたる山の わざなみならず
 人の師となり 母ともなりて
 まごころに 世にこそ報いめ
 みことのまにま

篁会役員

<平成28年4月現在>

会 長 古閑 恵一 (篁 77 回生)	理 事 岩野 英子 (篁 68 回生)	理 事 川戸 直美 (篁 74 回生)
名誉会長 高田 純一 竹早高校校長	理 事 今井大弥太 (篁 70 回生)	理 事 松永 茂樹 (篁 75 回生)
顧 問 星野 昌子 (篁 50 回生)	理 事 松澤由利子 (篁 70 回生)	理 事 小野 順子 (篁 76 回生)
顧 問 磯貝 恵三 (篁 55 回生)	理 事 高倉 孝生 (篁 71 回生)	理 事 青山 俊也 (篁 77 回生)
顧 問 松本 紀子 (篁 41 回生)	理 事 塩見 健 (篁 72 回生)	理 事 飯塚 均 (篁 77 回生)
副会長 吉岡 新 (篁 69 回生)	理 事 加藤幸太郎 (篁 72 回生)	理 事 鹿住 倫世 (篁 82 回生)
副会長 中村 光宏 (篁 71 回生)	理 事 伊坂 道子 (篁 72 回生)	理 事 戸次 聡史 (篁 82 回生)
副会長 薩田須美子 (篁 72 回生)	理 事 風間 玲子 (篁 72 回生)	理 事 鈴木 克洋 (篁 88 回生)
理 事 古山浩之助 (篁 64 回生)	理 事 高橋 政行 (篁 73 回生)	監 事 佐藤美紗子 (篁 64 回生)
理 事 池上美知子 (篁 68 回生)	理 事 花澤 聖子 (篁 73 回生)	監 事 橋本 正己 (篁 71 回生)
理 事 小田みどり (篁 68 回生)	理 事 姫野 賢治 (篁 74 回生)	

会報編集委員会

委員長 高橋 政行 (高校 25 回生)	平河 多恵 (高校 25 回生)
委 員 岩野 英子 (高校 20 回生)	関川 雅彦 (高校 25 回生)
吉岡 新 (高校 21 回生)	元木 孝子 (高校 25 回生)
今井大弥太 (高校 22 回生)	高嶋 巖 (高校 25 回生)
松澤由利子 (高校 22 回生)	姫野 賢治 (高校 26 回生)
奥田 和美 (高校 23 回生)	須田 文隆 (高校 26 回生)
原田 恵子 (高校 23 回生)	山田 祥子 (高校 26 回生)
薩田須美子 (高校 24 回生)	川戸 直美 (高校 26 回生)
塩見 健 (高校 24 回生)	佐藤美紗子 (高校 16 回生)
豊島 良行 (高校 24 回生)	古山浩之助 (高校 16 回生)
花澤 聖子 (高校 25 回生)	小野 順子 (高校 28 回生)
横山 公志 (高校 25 回生)	

篁会報



発行日 2016年4月22日
 発行 篁会
 〒112-0002
 東京都文京区小石川 4-2-1
 東京都立竹早高等学校内
 連絡用電話 090-8853-1901
<http://www.takamurakai.com>
 編集 篁会 会報編集委員会
 印刷 共立速記印刷株式会社
 〒102-0072
 東京都千代田区飯田橋 3-11-24

